



管理者ガイド

Amazon DCV セッションマネージャー



Amazon DCV セッションマネージャー: 管理者ガイド

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

セッションマネージャーとは	1
セッションマネージャーの仕組み	1
機能	3
制限	4
料金	4
要件	4
ネットワーク要件および接続要件	6
Session Manager を設定する	8
ステップ 1: Amazon DCV サーバーを準備する	8
ステップ 2: ブローカーをセットアップする	9
ステップ 3: エージェントをセットアップする	12
ステップ 4: Amazon DCV サーバーを設定する	19
ステップ 5: インストールを検証する	21
エージェントの検証	22
ブローカーの検証	23
セッションマネージャーの設定	24
セッションマネージャーのスケールリング	24
ステップ 1: インスタンスプロファイルを作成する	25
ステップ 2: ロードバランサーの SSL 証明書を準備する	26
ステップ 3: ブローカーの Application Load Balancer を作成する	27
ステップ 4: ブローカーを起動する	28
ステップ 5: エージェントの Application Load Balancer を作成する	29
ステップ 6: エージェントの起動	31
Amazon DCV サーバーでのタグの使用	32
外部認可サーバーの設定	34
ブローカー永続性の設定	39
DynamoDB で永続化されるようにブローカーを設定する	39
MariaDB/MySQL で永続化させるためにブローカーを設定する	41
Amazon DCV Connection Gateway との統合	42
セッションマネージャブローカーを Amazon DCV Connection Gateway のセッションリ ゾルバーとして設定	42
オプション - TLS クライアント認証の有効化	43
Amazon DCV サーバー - DNS マッピングリファレンス	45
Amazon CloudWatch との統合	46

セッションマネージャーのアップグレード	49
Amazon DCV セッションマネージャーエージェントのアップグレード	49
Amazon DCV セッションマネージャーブローカーのアップグレード	53
ブローカー CLI リファレンス	56
register-auth-server	57
構文	57
オプション	57
例	57
list-auth-servers	58
構文	57
Output	58
例	57
unregister-auth-server	59
構文	57
オプション	57
Output	58
例	57
register-api-client	60
構文	57
オプション	57
Output	58
例	57
describe-api-clients	61
構文	57
Output	58
例	57
unregister-api-client	63
構文	57
オプション	57
例	57
renew-auth-server-api-key	64
Syntax	57
例	57
generate-software-statement	64
構文	57
Output	58

例	57
describe-software-statements	66
構文	57
Output	58
例	57
deactivate-software-statement	67
構文	57
オプション	57
例	57
describe-agent-clients	68
構文	57
Output	58
例	57
unregister-agent-client	69
構文	57
オプション	57
例	57
register-server-dns-mappings	70
構文	57
オプション	57
例	57
describe-server-dns-mappings	71
構文	57
Output	58
例	57
設定ファイルリファレンス	73
ブローカー設定ファイル	73
エージェント設定ファイル	92
リリースノートとドキュメント履歴	100
リリースノート	100
2025.0-544 — 2026 年 2 月 2 日	101
2025.0-544 — 2025 年 12 月 23 日	101
2025.0-539 — 2025 年 11 月 12 日	101
2025.0-539 — 2025 年 10 月 22 日	102
2024.0-531 — 2025 年 6 月 17 日	102
2024.0-504 — 2025 年 3 月 31 日	102

2024.0-493 — 2025 年 1 月 15 日	103
2024.0-457 - 2024 年 10 月 1 日	103
2023.1-17652 - 2024 年 8 月 1 日	103
2023.1-16388 - 2024 年 6 月 26 日	104
2023.1— 2023 年 11 月 9 日	104
2023.0-15065— 2023 年 5 月 4 日	104
2023.0-14852— 2023 年 3 月 28 日	105
2022.2-13907— 2022 年 11 月 11 日	105
2022.1-13067— 2022 年 6 月 29 日	105
2022.0-11952 — 2022 年 2 月 23 日	105
2021.3-11591 — 2021 年 12 月 20 日	106
2021.2-11445 — 2021 年 11 月 18 日	106
2021.2-11190 — 2021 年 10 月 11 日	106
2021.2-11042 — 2021 年 9 月 1 日	107
2021.1-10557 — 2021 年 5 月 31 日	107
2021.0-10242 — 2021 年 4 月 12 日	108
2020.2-9662 — 2020 年 12 月 4 日	108
.....	109
ドキュメント履歴	109
.....	cxiii

Amazon DCV セッションマネージャーとは

Note

Amazon DCV は以前は NICE DCV と呼ばれていました。

Amazon DCV セッションマネージャーとは、インストール可能なソフトウェアパッケージ (エージェントとブローカー) とアプリケーションプログラミングインターフェイス (API) のセットです。デベロッパーや独立系ソフトウェアベンダー (ISV) がこれを使えば、Amazon DCV サーバーフリートにおける Amazon DCV セッションのライフサイクルの作成および管理をプログラムで実行できるフロントエンドアプリケーションを簡単に構築できます。

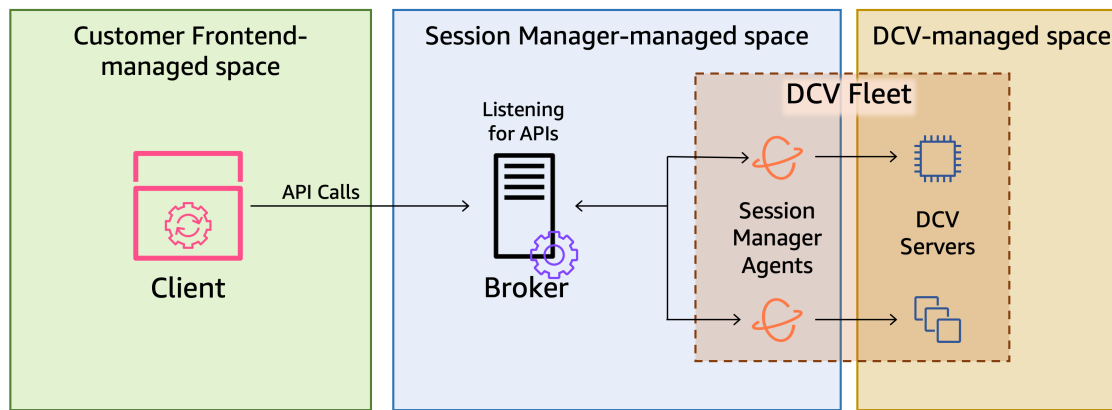
このガイドでは、セッションマネージャーのエージェントとブローカーをインストールして設定する方法について説明します。セッションマネージャー API の詳しい使用方法については、「Amazon DCV セッションマネージャーデベロッパーガイド」を参照してください。

トピック

- [セッションマネージャーの仕組み](#)
- [機能](#)
- [制限](#)
- [料金](#)
- [Amazon DCV セッションマネージャーの要件](#)

セッションマネージャーの仕組み

次の図は、セッションマネージャーの高レベルコンポーネントを示しています。



ブローカー

ブローカーは、セッションマネージャー API のホストと公開を実行するウェブサーバーです。API リクエストを受信して処理し、クライアントから Amazon DCV セッションを管理し、関連するエージェントに指示を渡します。ブローカーは、Amazon DCV サーバーとは別のホストにインストールする必要がありますが、クライアントへのアクセスが可能な状態で、かつ、エージェントにアクセスできる必要があります。

[エージェント]

エージェントは、フリート内の各 Amazon DCV サーバーにインストールされます。エージェントは、ブローカーからの指示を受信し、それぞれの Amazon DCV サーバーでそれらを実行します。さらに、Amazon DCV サーバーの状態を監視し、定期的にステータス更新をブローカーに送信します。

API

セッションマネージャーでは、Amazon DCV サーバーのフリートで Amazon DCV セッションを管理するために使用できる REST アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) のセットが公開されます。API はブローカーでホストされて公開されます。デベロッパーは API を呼び出せるカスタムのセッション管理クライアントを構築できます。

クライアント

クライアントは、ブローカーにより公開されるセッションマネージャー API を呼び出すために開発されるフロントエンドのアプリケーションまたはポータルです。エンドユーザーは、クライアントを使用して、フリート内の Amazon DCV サーバーでホストされるセッションを管理します。

アクセストークン

API リクエストを実行するには、アクセストークンを提供する必要があります。トークンは、登録されたクライアント API によって、ブローカーまたは外部認可サーバーから要求できます。トークンをリクエストしてアクセスするには、クライアント API から有効な認証情報を提供される必要があります。

クライアント API

クライアント API は、Swagger Codegen を使用して、セッションマネージャー API 定義 YAML ファイルから生成されます。クライアント API は API リクエストの作成に使用されます。

Amazon DCV セッション

Amazon DCV セッションは、Amazon DCV サーバーがクライアントからの接続を受け入れることができる期間です。クライアントを Amazon DCV セッションに接続できるようにするには、Amazon DCV サーバーで Amazon DCV セッションを作成する必要があります。Amazon DCV はコンソールセッションと仮想セッションの両方をサポートし、各セッションには指定された所有者と一連のアクセス許可があります。セッションマネージャー API を使用して、Amazon DCV セッションのライフサイクルを管理します。Amazon DCV セッションは、次のいずれかの状態になります。

- CREATING — ブローカーはセッション作成中です。
- READY — セッションはクライアント接続を受け入れる準備ができました。
- DELETING — セッションが削除されています。
- DELETED — セッションが削除されました。
- UNKNOWN — セッションの状態を判別できません。ブローカーとエージェントが通信できない可能性があります。

機能

DCV セッションマネージャーには以下の特徴があります。

- Amazon DCV セッション情報を提供 — 複数の Amazon DCV サーバーで実行されているセッションに関する情報が得られます。
- 複数の Amazon DCV セッションのライフサイクルを管理 — 1 件の API リクエストにより、複数の Amazon DCV サーバー間で複数のユーザーに対して複数のセッションの作成や削除を行うことができます。

- タグをサポート — カスタムタグを使用してセッション作成時に Amazon DCV サーバーのグループをターゲットにすることができます。
- 複数の Amazon DCV セッションの許可を管理 — 1 件の API リクエストで複数のセッションのユーザー許可に変更を加えることができます。
- 接続情報を提供 — Amazon DCV セッションのクライアント接続情報が得られます。
- クラウドとオンプレミスのサポート — AWS、オンプレミスサーバー、または代替のクラウドベースサーバーでセッションマネージャーを使用できます。

制限

セッションマネージャーには、リソースのプロビジョニング機能はありません。Amazon EC2 インスタンスで Amazon DCV を実行している場合は、Amazon EC2 Auto Scaling などの追加 AWS サービスを使用してインフラストラクチャのスケールリングを管理する必要がある場合があります。

料金

Session Manager は、EC2 インスタンスを実行している AWS お客様に無料でご利用いただけます。

オンプレミスのお客様の場合は、Amazon DCV Plus または Amazon DCV Professional Plus のライセンスを取得していただく必要があります。Amazon DCV Plus や Amazon DCV Professional Plus のライセンスの購入方法については、Amazon DCV のウェブサイトの「[How to Buy](#)」を参照してください。お住まいの地域の Amazon DCV 販売代理店または再販業者が掲載されています。すべてのオンプレミスのお客様に Amazon DCV セッションマネージャーをお試しいただけるように、ライセンス要件は Amazon DCV バージョン 2021.0 以降のみに適用されます。

詳細については、「Amazon DCV 管理者ガイド」の「[Amazon DCV サーバーのライセンスを取得する](#)」を参照してください。

Amazon DCV セッションマネージャーの要件

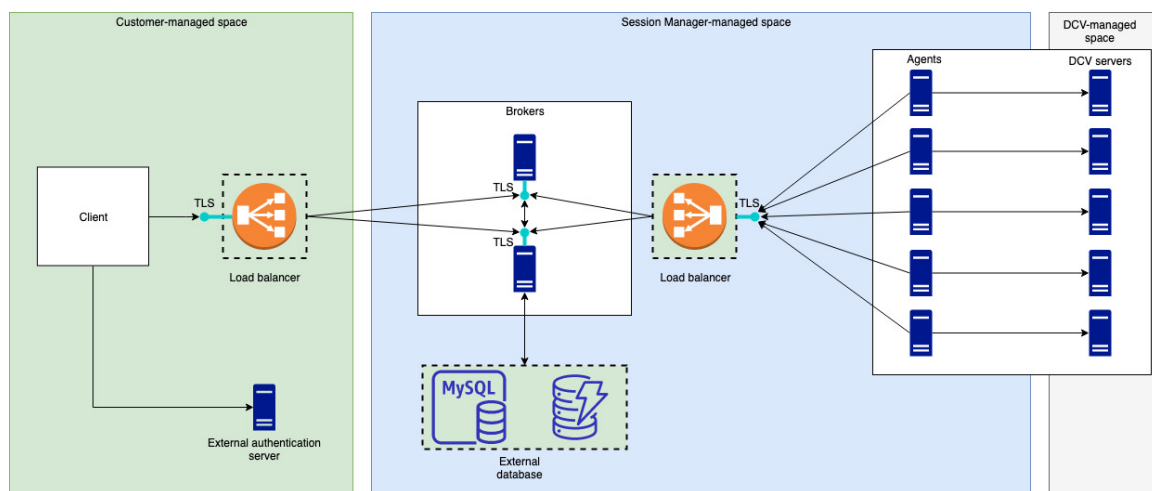
Amazon DCV セッションマネージャーのエージェントとブローカーには、次の要件があります。

	ブローカー	[エージェント]
オペレーティングシステム	• Amazon Linux 2 • Amazon Linux 2023 • CentOS Stream 9 • RHEL 8.x • RHEL 9.x • Rocky Linux 8.5 以降 • Rocky Linux 9.x • Ubuntu 22.04 • Ubuntu 24.04	• Windows • Windows 11 • Windows Server 2025 • Windows Server 2022 • Windows Server 2019 • Windows Server 2016 • [Linux サーバー] • Amazon Linux 2 • Amazon Linux 2023 • CentOS Stream 9 • RHEL 8.x • RHEL 9.x • Rocky Linux 8.5 以降 • Rocky Linux 9.x • Ubuntu 22.04 • Ubuntu 24.04 • SP6 以降を搭載した SUSE Linux Enterprise 15 • macOS • macOS 13 (Ventura) • macOS 14 (ソノマ) • macOS 15 (セコイア)
アーキテクチャ	• 64 ビット x86 • 64 ビット ARM	• 64 ビット x86 • 64 ビット ARM (Amazon Linux 2、Amazon Linux 2023、CentOS 9.x、RHEL 8.x/9.x、Rocky 8.x/9.x、Ubuntu 22.04/24.04、macOS 13/14/15)

	ブローカー	[エージェント]
メモリ	8 GB	4 GB
Amazon DCV バージョン	Amazon DCV 2020.2 以降	Amazon DCV 2020.2 以降
その他の要件	Java 11	-

ネットワーク要件および接続要件

次の図は、セッションマネージャーのネットワーク要件と接続要件の高レベルの概要を示しています。



ブローカーは別のホストにインストールする必要がありますが、Amazon DCV サーバーのエージェントとのネットワーク接続が必要になります。可用性を向上させるために複数のブローカーを使用する場合は、各ブローカーを別々のホストにインストールして設定し、1 つ以上のロードバランサーを使用して、クライアントとブローカー間とブローカーとエージェント間のトラフィックを管理する必要があります。ブローカーは、Amazon DCV サーバーとセッションに関する情報を交換するために相互通信が可能な状態でなければなりません。ブローカーでは、キーとステータスデータを外部データベースに保存し、再起動後または終了後にこの情報を入手可能な状態にすることができます。重要なブローカー情報を外部データベースに保存することで、重要なブローカー情報を失うリスクを軽減できます。この情報を後で復元することはできません。情報の保持を選択した場合は、外部データ

ベースをセットアップしてブローカーを設定する必要があります。DynamoDB、MariaDB、MySQL がサポートされます。設定パラメータは [ブローカー設定ファイル](#) で確認できます。

エージェントは、ブローカーとの安全かつ永続的な双方向 HTTPS 接続を開始できる状態でなければなりません。

クライアント、またはフロントエンドアプリケーションは、API を呼び出すためにブローカーにアクセスできる状態でなければなりません。クライアントは認証サーバーにアクセスすることもできます。

Amazon DCV セッションマネージャーのセットアップ

次のセクションでは、単一のブローカーと複数のエージェントを使用してセッションマネージャーをインストールする方法について説明します。複数のブローカーを使用して、スケーラビリティとパフォーマンスを向上させることができます。詳細については、「[セッションマネージャーのスケーリング](#)」を参照してください。

Amazon DCV セッションマネージャーをセットアップするには、次の手順を実行します。

ステップ

- [ステップ 1: Amazon DCV サーバーを準備する](#)
- [ステップ 2: Amazon DCV セッションマネージャーブローカーをセットアップする](#)
- [ステップ 3: Amazon DCV セッションマネージャーエージェントをセットアップする](#)
- [ステップ 4: ブローカーが認証サーバーとして使用されるように Amazon DCV サーバーを設定する](#)
- [ステップ 5: インストールを検証する](#)

ステップ 1: Amazon DCV サーバーを準備する

セッションマネージャーを使用する Amazon DCV サーバーのフリートが必要です。Amazon DCV サーバーのインストールの詳細については、「Amazon DCV 管理者ガイド」の「[Amazon DCV サーバーのインストール](#)」を参照してください。

Linux および macOS Amazon DCV サーバーでは、Session Manager は という名前のローカルサービスユーザーを使用します dcvsmagent。このユーザーは、セッションマネージャーエージェントのインストール時に自動的に作成されます。Amazon DCV が他のユーザーに代わってアクションを実行できるように、このサービスユーザーに管理者権限を付与する必要があります。セッションマネージャーのサービスユーザー管理者権限を付与するには、次の手順を実行します。

Linux および macOS Amazon DCV サーバーのローカルサービスユーザーを追加するには

1. お好みのテキストエディタを使用して/etc/dcv/dcv.confを開きます。
2. administrators パラメータを [security] セクションに追加し、セッションマネージャーユーザーを指定します。例:

```
[security]
```

```
administrators=["dcvsmagent"]
```

3. ファイルを保存して閉じます。
4. Amazon DCV サーバーを停止して再起動します。

セッションマネージャーは、Amazon DCV サーバーに既に存在するユーザーに代わって Amazon DCV セッションの作成のみを実行できます。存在しないユーザーのセッションを作成するためにリクエストを出しても失敗します。したがって、対象の各エンドユーザーに Amazon DCV サーバーの有効なシステムユーザーが含まれていることを確認する必要があります。

Tip

エージェントで複数のブローカーホストまたは Amazon DCV サーバーを使用する場合は、完成された設定でホストの Amazon マシンイメージ (AMI) を作成し、AMI を使用して残りのブローカーサーバーと Amazon DCV サーバーを起動することで、ブローカー 1 つと、1 つのエージェントを含む Amazon DCV サーバーを 1 つだけ設定することをお勧めします。または、AWS Systems Manager を使用して、複数のインスタンスでコマンドをリモートで実行することもできます。

ステップ 2: Amazon DCV セッションマネージャーブローカーをセットアップする

ブローカーを Linux ホストにインストールする必要があります。サポートされている Linux ディストリビューションの詳細については、「[Amazon DCV セッションマネージャーの要件](#)」を参照してください。エージェントおよび Amazon DCV サーバーホストとは別のホストにブローカーをインストールします。ホストは別のプライベートネットワークにインストールできますが、エージェントに接続して通信できる状態でなければなりません。

ブローカーをインストールして起動する方法

1. ブローカーをインストールするホストに接続します。
2. パッケージは安全な GPG 署名でデジタル署名されています。パッケージマネージャーがパッケージ署名を検証できるようにするには、Amazon DCV GPG キーをインポートする必要があります。Amazon DCV GPG キーをインポートするには、次のコマンドを実行します。

- Amazon Linux 2、RHEL、CentOS、Rocky Linux

```
$ sudo rpm --import https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/NICE-GPG-KEY
```

- Ubuntu

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/NICE-GPG-KEY
```

```
$ gpg --import NICE-GPG-KEY
```

3. インストールパッケージをダウンロードします。

- Amazon Linux 2

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerBrokers/nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1.el7.noarch.rpm
```

- Amazon Linux 2023

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerBrokers/nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1.amzn2023.noarch.rpm
```

- RHEL 8.x と Rocky Linux 8.x

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerBrokers/nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1.el8.noarch.rpm
```

- CentOS 9.x、RHEL 9.x、Rocky Linux 9.x

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerBrokers/nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1.el9.noarch.rpm
```

- Ubuntu 20.04

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerBrokers/nice-dcv-session-manager-broker_2025.0.539-1_all.ubuntu2004.deb
```

- Ubuntu 22.04

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerBrokers/nice-dcv-session-manager-broker_2025.0.539-1_all.ubuntu2204.deb
```

- Ubuntu 24.04

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerBrokers/nice-dcv-session-manager-broker_2025.0.539-1_all.ubuntu2404.deb
```

4. パッケージをインストールします。

- Amazon Linux 2

```
$ sudo yum install -y ./nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1.el7.noarch.rpm
```

- Amazon Linux 2023

```
$ sudo yum install -y ./nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1.amzn2023.noarch.rpm
```

- RHEL 8.x と Rocky Linux 8.x

```
$ sudo yum install -y ./nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1.el8.noarch.rpm
```

- CentOS 9.x、RHEL 9.x、Rocky Linux 9.x

```
$ sudo yum install -y ./nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1.el9.noarch.rpm
```

- Ubuntu 20.04

```
$ sudo apt install -y ./nice-dcv-session-manager-broker_2025.0.539-1_all.ubuntu2004.deb
```

- Ubuntu 22.04

```
$ sudo apt install -y ./nice-dcv-session-manager-broker_2025.0.539-1_all.ubuntu2204.deb
```

- Ubuntu 24.04

```
$ sudo apt install -y ./nice-dcv-session-manager-broker_2025.0.539-1_all.ubuntu2404.deb
```

5. デフォルトの Java 環境バージョンが 11であることを確認します。

```
$ java -version
```

バージョンが異なる場合、適切な Java バージョンを指定するように、ブローカーが使用する Java ホームディレクトリを明示的に設定できます。これは、ブローカー設定ファイルの `broker-java-home` パラメータを設定することで可能です。詳細については、「[ブローカー設定ファイル](#)」を参照してください。

6. ブローカーサービスを開始し、インスタンスを起動するたびにブローカーサービスが自動的に起動することを確認します。

```
$ sudo systemctl start dcv-session-manager-broker && sudo systemctl enable dcv-session-manager-broker
```

7. ブローカーの自己署名証明書のコピーをユーザーディレクトリに入れます。これは次のステップでエージェントをインストールするときに必要になります。

```
sudo cp /var/lib/dcvsmbroker/security/dcvsmbroker_ca.pem $HOME
```

ステップ 3: Amazon DCV セッションマネージャーエージェントをセットアップする

フリート内のすべての Amazon DCV サーバーホストにエージェントをインストールする必要があります。エージェントは、Windows、Linux、macOS ホストの両方にインストールできます。サポートされるオペレーティングシステムの詳細については、「[Amazon DCV セッションマネージャーの要件](#)」を参照してください。

前提条件

エージェントをインストールする前に、Amazon DCV サーバーをホストにインストールする必要があります。

Linux host

Note

セッションマネージャーエージェントは、「[要件](#)」に記載されている次の Linux ディストリビューションおよびアーキテクチャで使用できます。

以下は、64 ビット x86 ホストにエージェントをインストールする手順です。64 ビット ARM ホストにエージェントをインストールするには、**x86_64** を aarch64 に置き換えます。Ubuntu の場合は、**amd64** を arm64 に置き換えます。

Linux ホストにエージェントをインストールする方法

1. パッケージは安全な GPG 署名でデジタル署名されています。パッケージマネージャーがパッケージ署名を検証できるようにするには、Amazon DCV GPG キーをインポートする必要があります。Amazon DCV GPG キーをインポートするには、次のコマンドを実行します。

- Amazon Linux 2、RHEL、CentOS、SUSE Linux Enterprise

```
$ sudo rpm --import https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/NICE-GPG-KEY
```

- Ubuntu

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/NICE-GPG-KEY
```

```
$ gpg --import NICE-GPG-KEY
```

2. インストールパッケージをダウンロードします。

- Amazon Linux 2

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.801-1.el17.x86_64.rpm
```

- Amazon Linux 2023

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.amzn2023.x86_64.rpm
```

- RHEL 8.x と Rocky Linux 8.x

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.el8.x86_64.rpm
```

- CentOS 9.x、RHEL 9.x、Rocky Linux 9.x

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.el9.x86_64.rpm
```

- Ubuntu 20.04

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent_2025.0.888-1_amd64.ubuntu2004.deb
```

- Ubuntu 22.04

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent_2025.0.888-1_amd64.ubuntu2204.deb
```

- Ubuntu 24.04

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent_2025.0.888-1_amd64.ubuntu2404.deb
```

- SUSE Linux Enterprise 12

```
$ curl -O https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.sles12.x86_64.rpm
```

- SUSE Linux Enterprise 15

```
$ curl -O https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.sles15.x86_64.rpm
```

3. パッケージをインストールします。

- Amazon Linux 2

```
$ sudo yum install -y ./nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.el7.x86_64.rpm
```

- Amazon Linux 2023

```
$ sudo yum install -y ./nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.amzn2023.x86_64.rpm
```

- RHEL 8.x と Rocky Linux 8.x

```
$ sudo yum install -y ./nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.el8.x86_64.rpm
```

- CentOS 9.x、RHEL 9.x、Rocky Linux 9.x

```
$ sudo yum install -y ./nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.el9.x86_64.rpm
```

- Ubuntu 20.04

```
$ sudo apt install ./nice-dcv-session-manager-agent_2025.0.888-1_amd64.ubuntu2004.deb
```

- Ubuntu 22.04

```
$ sudo apt install ./nice-dcv-session-manager-agent_2025.0.888-1_amd64.ubuntu2204.deb
```

- Ubuntu 24.04

```
$ sudo apt install ./nice-dcv-session-manager-agent_2025.0.888-1_amd64.ubuntu2404.deb
```

- SUSE Linux Enterprise 12

```
$ sudo zypper install ./nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.sles12.x86_64.rpm
```

- SUSE Linux Enterprise 15

```
$ sudo zypper install ./nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.sles15.x86_64.rpm
```

4. ブローカーの自己署名証明書のコピー (前のステップでコピー済み) をエージェントの /etc/dcv-session-manager-agent/ ディレクトリに入れます。
5. 任意のテキストエディタを使用して /etc/dcv-session-manager-agent/agent.conf ファイルを開き、以下を実行します。
 - broker_host の場合、ブローカーがインストールされているホストの DNS 名を指定します。

⚠ Important

ブローカーが Amazon EC2 インスタンスで実行されている場合は、broker_host に対してインスタンスのプライベート IPv4 アドレスを指定する必要があります。

- (オプション) broker_port に対して、ブローカーとの通信用ポートを指定します。デフォルトでは、エージェントとブローカー間の通信はポート 8445 を介して行われます。別のポートを使用する必要がある場合のみ、これを選択します。変更する場合は、ブローカーで同じポートが使用されるように設定されていることを確認してください。
- ca_file に対して、前のステップでコピーした証明書ファイルのフルパスを指定します。例:

```
ca_file = '/etc/dcv-session-manager-agent/broker_cert.pem'
```

TLS 検証を無効にする場合は、tls_strict を false に設定します。

6. ファイルを保存して閉じます。
7. エージェントを開始するには、次のコマンドを実行します。

```
$ sudo systemctl start dcv-session-manager-agent
```

Windows host

Windows ホストにエージェントをインストールする方法

1. [エージェントインストーラー](#)をダウンロードします。
2. インストーラーを実行します。ようこそ画面で、[Next] を選択します。
3. [EULA] 画面で、使用許諾書をしっかりと読んだ上で、条件に同意する場合は [I accept the terms] (同意します) を選択し、[Next] (次へ) を選択します。
4. インストールを開始するには [Install] (インストール) を選択します。
5. ブローカーの自己署名証明書のコピー (前のステップでコピー済み) をエージェントの C:\Program Files\NICE\DCVSessionManagerAgent\conf\ フォルダに入れます。
6. 任意のテキストエディタを使用して C:\Program Files\NICE\DCVSessionManagerAgent\conf\agent.conf ファイルを開き、以下を実行します。

- `broker_host` の場合、ブローカーがインストールされているホストの DNS 名を指定します。

⚠ Important

ブローカーが Amazon EC2 インスタンスで実行されている場合は、`broker_host` に対してインスタンスのプライベート IPv4 アドレスを指定する必要があります。

- (オプション) `broker_port` に対して、ブローカーとの通信用ポートを指定します。デフォルトでは、エージェントとブローカー間の通信はポート 8445 を介して行われます。別のポートを使用する必要がある場合のみ、これを選択します。変更する場合は、ブローカーで同じポートが使用されるように設定されていることを確認してください。
- `ca_file` に対して、前のステップでコピーした証明書ファイルのフルパスを指定します。例:

```
ca_file = 'C:\Program Files\NICE\DCVSessionManagerAgent\conf\broker_cert.pem'
```

TLS 検証を無効にする場合は、`tls_strict` を `false` に設定します。

7. ファイルを保存して閉じます。
8. エージェントサービスを停止して再起動し、変更を有効にします。コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
C:\> sc stop DcvSessionManagerAgentService
```

```
C:\> sc start DcvSessionManagerAgentService
```

macOS host

エージェントを macOS ホストにインストールするには

1. [エージェントインストーラ](#)をダウンロードするか、コマンドラインを使用します。

```
$ curl -O https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-macos-arm64.pkg
```

2. パッケージをインストールします。コマンドラインを使用するか、エージェントインストーラーを介して使用できます。

- コマンドライン:

```
$ sudo installer -pkg ./nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-macos-arm64.pkg -target /
```

- エージェントインストーラ: .pkg ファイルをダブルクリックし、インストールウィザードに従います。
3. ブローカーの自己署名証明書のコピー (前のステップでコピー済み) をエージェントの /etc/dcv-session-manager-agent/ ディレクトリに入れます。
 4. 任意のテキストエディタを使用して /etc/dcv-session-manager-agent/agent.conf ファイルを開き、以下を実行します。
- broker_host の場合、ブローカーがインストールされているホストの DNS 名を指定します。

 Important

ブローカーが Amazon EC2 インスタンスで実行されている場合は、broker_host に対してインスタンスのプライベート IPv4 アドレスを指定する必要があります。

- (オプション) broker_port に対して、ブローカーとの通信用ポートを指定します。デフォルトでは、エージェントとブローカー間の通信はポート 8445 を介して行われます。別のポートを使用する必要がある場合のみ、これを選択します。変更する場合は、ブローカーで同じポートが使用されるように設定されていることを確認してください。
- ca_file に対して、前のステップでコピーした証明書ファイルのフルパスを指定します。例:

```
ca_file = '/usr/local/etc/dcv-session-manager-agent/broker_cert.pem'
```

TLS 検証を無効にする場合は、tls_strict を false に設定します。

5. ファイルを保存して閉じます。
6. エージェントサービスを起動します。

```
$ sudo launchctl load /Library/LaunchDaemons/com.amazon.dcv.session-manager.agent.plist
```

ステップ 4: ブローカーが認証サーバーとして使用されるように Amazon DCV サーバーを設定する

クライアント接続トークンの検証のためにブローカーが外部認証サーバーとして使用されるように Amazon DCV サーバーを設定します。また、ブローカーの自己署名 CA を信頼するように Amazon DCV サーバーを設定する必要があります。

Linux Amazon DCV server

Linux Amazon DCV サーバーのローカルサービスユーザーを追加する方法

1. お好みのテキストエディタを使用して/etc/dcv/dcv.confを開きます。
2. ca-file パラメータと auth-token-verifier パラメータを [security] セクションに追加します。
 - ca-file に対して、前のステップでホストにコピーしたブローカーの自己署名 CA へのパスを指定します。
 - auth-token-verifier に対して、ブローカーのトークン検証の URL を `https://broker_ip_or_dns:port/agent/validate-authentication-token` 形式で指定します。ブローカーとエージェント間の通信に使用するポートを指定します。デフォルトでは 8445 です。Amazon EC2 インスタンスでブローカーを実行している場合は、プライベート DNS またはプライベート IP アドレスを使用する必要があります。

例

```
[security]
ca-file="/etc/dcv-session-manager-agent/broker_cert.pem"
auth-token-verifier="https://my-sm-broker.com:8445/agent/validate-authentication-token"
```

3. ファイルを保存して閉じます。

4. Amazon DCV サーバーを停止して再起動します。詳細については、「Amazon DCV 管理者ガイド」の「[Amazon DCV サーバーの停止](#)」と「[Amazon DCV サーバーの起動](#)」を参照してください。

Windows Amazon DCV server

Windows Amazon DCV サーバーの場合

1. Windows レジストリエディタを開き、HKEY_USERS/S-1-5-18/Software/GSettings/com/nicesoftware/dcv/security/ キーに移動します。
2. [ca-file] パラメータを開きます。
3. 値のデータに対して、前のステップでホストにコピーしたブローカーの自己署名 CA へのパスを指定します。

Note

パラメータが存在しない場合は、新しい文字列パラメータを作成して ca-file という名前を付けます。

4. auth-token-verifier パラメータを開きます。
5. 値のデータに対して、ブローカーのトークン検証の URL を `https://broker_ip_or_dns:port/agent/validate-authentication-token` 形式で指定します。
6. ブローカーとエージェント間の通信に使用するポートを指定します。デフォルトでは 8445 です。Amazon EC2 インスタンスでブローカーを実行している場合は、プライベート DNS またはプライベート IP アドレスを使用する必要があります。

Note

パラメータが存在しない場合は、新しい文字列パラメータを作成して auth-token-verifier という名前を付けます。

7. [OK] を選択して Windows レジストリエディタを閉じます。
8. Amazon DCV サーバーを停止して再起動します。詳細については、「Amazon DCV 管理者ガイド」の「[Amazon DCV サーバーの停止](#)」と「[Amazon DCV サーバーの起動](#)」を参照してください。

macOS Amazon DCV server

macOS Amazon DCV サーバーのローカルサービスユーザーを追加するには

1. お好みのテキストエディタを使用して/etc/dcv/dcv.confを開きます。
2. ca-file パラメータと auth-token-verifier パラメータを [security] セクションに追加します。
 - ca-file に対して、前のステップでホストにコピーしたブローカーの自己署名 CA へのパスを指定します。
 - auth-token-verifier に対して、ブローカーのトークン検証の URL を `https://broker_ip_or_dns:port/agent/validate-authentication-token` 形式で指定します。ブローカーとエージェント間の通信に使用するポートを指定します。デフォルトでは 8445 です。Amazon EC2 インスタンスでブローカーを実行している場合は、プライベート DNS またはプライベート IP アドレスを使用する必要があります。

例

```
[security]
ca-file="/usr/local/etc/dcv-session-manager-agent/broker_cert.pem"
auth-token-verifier="https://my-sm-broker.com:8445/agent/validate-authentication-token"
```

3. ファイルを保存して閉じます。
4. Amazon DCV サーバーを停止して再起動します。詳細については、「Amazon DCV 管理者ガイド」の「[Amazon DCV サーバーの停止](#)」と「[Amazon DCV サーバーの起動](#)」を参照してください。

ステップ 5: インストールを検証する

エージェントをセットアップし、ブローカーをセットアップし、Amazon DCV サーバーで両方を設定したら、インストールが正しく機能していることを確認する必要があります。

トピック

- [エージェントの検証](#)
- [ブローカーの検証](#)

エージェントの検証

ブローカーとエージェントをインストールしたら、エージェントが実行中であることと、ブローカーに接続できることを確認します。

Linux および macOS エージェントホスト

実行するコマンドはバージョンによって異なります。

- バージョン 2022.0 以降

エージェントのホストから次のコマンドを実行します。

```
$ grep 'sessionsUpdateResponse' /var/log/dcv-session-manager-agent/agent.log | tail -1 | grep -o success
```

- バージョン 2022.0 以前

エージェントホストから次のコマンドを実行し、現在の年月日を指定します。

```
$ grep 'sessionsUpdateResponse' /var/log/dcv-session-manager-agent/agent.log.yyyy-mm-dd | tail -1 | grep -o success
```

例

```
$ grep 'sessionsUpdateResponse' /var/log/dcv-session-manager-agent/agent.log.2020-11-19 | tail -1 | grep -o success
```

エージェントが実行中であり、ブローカーに接続できる場合、コマンドから success が返されます。

コマンドから別の出力が返された場合は、エージェントログファイルで詳細を調べます。ログファイルは /var/log/dcv-session-manager-agent/ にあります。

Windows エージェントホスト

C:\ProgramData\NICE\DCVSessionManagerAgent\log にあるエージェントログファイルを開きます。

ログファイルに次のような行が含まれている場合、エージェントは実行中であり、ブローカーに接続できます。

```
2020-11-02 12:38:03,996919 INFO ThreadId(05) dcvsessionmanageragent::agent:Processing
broker message "{\n  \"sessionsUpdateResponse\" : {\n    \"requestId\" :
  \"69c24a3f5f6d4f6f83ffbb9f7dc6a3f4\", \n    \"result\" : {\n      \"success\" : true\n    }\n  }\n}"
```

ログファイルにこのような行が含まれていない場合は、エラーがないかログファイルを調べます。

ブローカーの検証

ブローカーとエージェントをインストールしたら、ブローカーが実行中であることと、ユーザーとフロントエンドアプリケーションからアクセスできる状態であることを確認します。

ブローカーに到達できるコンピュータから、次のコマンドを実行します。

```
$ curl -X GET https://broker_host_ip:port/sessionConnectionData/aSession/aOwner --
insecure
```

検証が成功すると、ブローカーから以下が返されます。

```
{
  "error": "No authorization header"
}
```

Amazon DCV セッションマネージャーの設定

シームレスで安全なエクスペリエンスを提供するには、組織のニーズと要件に応じてセッションマネージャーを適切に設定することが重要です。このセクションでは、ユーザーアクセスの管理、ネットワーク設定の構成、セッション設定のカスタマイズなど、セッションマネージャーのセットアップと設定に関連する主要なステップについて説明します。

トピック

- [セッションマネージャーのスケーリング](#)
- [Amazon DCV サーバーをターゲットにするためのタグの使用](#)
- [外部認可サーバーの設定](#)
- [ブローカー永続性の設定](#)
- [Amazon DCV Connection Gateway との統合](#)
- [Amazon CloudWatch との統合](#)

セッションマネージャーのスケーリング

高可用性を実現してパフォーマンスを向上させるために、複数のエージェントとブローカーを使用するようにセッションマネージャーを設定することができます。複数のエージェントとブローカーを使用する場合は、エージェントとブローカーホストを 1 つだけインストールして設定し、これらのホストから Amazon マシンイメージ (AMI) を作成して、残りのホストを AMI から起動することをお勧めします。

セッションマネージャーではデフォルト設定で、追加の設定を行うことなく複数のエージェントの使用に対応しています。ただし、複数のブローカーを使用する場合は、ロードバランサーを使用して、フロントエンドクライアントとブローカー間、およびブローカーとエージェント間のトラフィックのバランスを取る必要があります。ロードバランサーのセットアップと設定は、ユーザーによって完全に所有され、かつ管理されます。

次のセクションでは、Application Load Balancer で複数のホストを使用するように Session Manager を設定する方法について説明します。

Steps

- [ステップ 1: インスタンスプロファイルを作成する](#)

- [ステップ 2: ロードバランサーの SSL 証明書を準備する](#)
- [ステップ 3: ブローカーの Application Load Balancer を作成する](#)
- [ステップ 4: ブローカーを起動する](#)
- [ステップ 5: エージェントの Application Load Balancer を作成する](#)
- [ステップ 6: エージェントの起動](#)

ステップ 1: インスタンスプロファイルを作成する

Elastic Load Balancing API の使用許可を付与するブローカーホストとエージェントホストにインスタンスプロファイルをアタッチする必要があります。詳細については、[Amazon EC2 ユーザーガイド](#) の「Amazon EC2 の IAM ロール」を参照してください。

インスタンスプロファイルを作成するには

1. インスタンスプロファイルで使用するアクセス許可を定義する AWS Identity and Access Management (IAM) ロールを作成します。次の信頼ポリシーを使用します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": "ec2.amazonaws.com"
      },
      "Action": "sts:AssumeRole"
    }
  ]
}
```

次に、以下のポリシーをアタッチします。

JSON

```
{
```

```
"Version": "2012-10-17",
"Statement": [
  {
    "Action": [
      "ec2:DescribeInstances"
    ],
    "Effect": "Allow",
    "Resource": "*"
  },
  {
    "Action": [
      "elasticloadbalancing:DescribeTargetHealth"
    ],
    "Effect": "Allow",
    "Resource": "*"
  }
]
```

詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM ロールの作成](#)」を参照してください。

2. 新しいインスタンスプロファイルを作成します。詳細については、「AWS CLI コマンドリファレンス」の「[create-instance-profile](#)」を参照してください。
3. インスタンスプロファイルに IAM ロールを追加します。詳細については、「AWS CLI コマンドリファレンス」の「[add-role-to-instance-profile](#)」を参照してください。
4. インスタンスプロファイルをブローカーホストアタッチします。詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[インスタンスへの IAM ロールのアタッチ](#)」を参照してください。

ステップ 2: ロードバランサーの SSL 証明書を準備する

ロードバランサーに HTTPS を使用するときは、ロードバランサーに SSL 証明書をデプロイする必要があります。ターゲットにリクエストを送信する前に、ロードバランサーはこの証明書を使用して接続を終了し、クライアントからのリクエストを復号します。

SSL 証明書を準備するには

1. プライベート認証機関 (CA) AWS Certificate Manager Private Certificate Authority (ACM PCA) を作成します。詳細については、AWS Certificate Manager Private Certificate Authority ユーザーガイドの「[CA の作成手順](#)」を参照してください。

2. CA をインストールします。詳細については、Certificate Manager Private Certificate Authority ユーザーガイドの「[ルート CA 証明書のインストール](#)」を参照してください。AWS
3. CA によって署名された新しいプライベート証明書を要求します。ドメイン名については、*.**region**.elb.amazonaws.com を使用して、ロードバランサーを作成する予定のリージョンを指定します。詳細については、Certificate Manager [Private Certificate Authority ユーザーガイド](#)の「プライベート証明書のリクエスト」を参照してください。AWS

ステップ 3: ブローカーの Application Load Balancer を作成する

Application Load Balancer を作成して、フロントエンドクライアントとブローカー間のトラフィックのバランスを調整します。

ロードバランサーを作成する方法

1. Amazon EC2 コンソールの <https://console.aws.amazon.com/ec2/> を開いてください。

ナビゲーションペインで、[Load Balancers] (ロードバランサー) を選択し、[Create Load Balancer] (ロードバランサーの作成) を選択します。[load balance type] (ロードバランサーのタイプ) で、[Application Load Balancer] を選択します。

2. [Step 1: Configure Load Balancer] で、以下の操作を行います。
 - a. [Name] (名前) に、対象のロードバランサーを表現した説明的な名前を入力します。
 - b. [Scheme] (スキーム) で、[internet-facing] (インターネット向け) を選択します。
 - c. [Load Balancer Protocol] (ロードバランサーのプロトコル) で [HTTPS] を選択し、[Load Balancer Port] (ロードバランサーのポート) に 8443 を入力します。
 - d. [VPC] で、使用する VPC を選択し、次にその VPC のサブネットを全て選択します。
 - e. [次へ] を選択します。
3. [Step 2: Configure Security Settings] (ステップ 2: セキュリティ設定を行う) で以下を実行します。
 - a. [Certificate type] (証明書のタイプ) で、[Choose a certificate from ACM] (ACM から証明書を選擇する) を選択します。
 - b. [Certificate name] (証明書名) で、前の段階でリクエストしたプライベート証明書を選択します。
 - c. [次へ] を選択します。

4. [Step 3: Configure Security Groups] (ステップ 3: セキュリティグループを設定する) で、新しいセキュリティグループを作成するか、または、HTTPS とポート 8443 でフロントエンドクライアントとブローカー間のインバウンドトラフィックとアウトバウンドトラフィックが可能な既存のセキュリティグループを選択します。

[次へ] を選択します。

5. [Step 4: Configure Routing] (ステップ 4: ルーティングの設定) で、以下の操作を行います。
 - a. [Target group] (ターゲットグループ) で、[New target group] (新しいターゲットグループ) を選択します。
 - b. [名前] に、ターゲットグループの名前を入力します。
 - c. [Target type] (ターゲットタイプ) で [Instance] (インスタンス) を選択します。
 - d. [Protocol] (プロトコル) で [HTTPS] を選択します。[Port (ポート)] に「8443」と入力します。[Protocol version] (プロトコルバージョン) で [HTTP1] を選択します。
 - e. ヘルスチェックの [Protocol] (プロトコル) で、[HTTPS] を選択し、[Path] (パス) に /health を入力します。
 - f. [次へ] を選択します。
6. [Step 5: Register Targets] (ステップ 5: ターゲットを登録する) で [Next] (次へ) を選択します。
7. [作成] を選択します。

ステップ 4: ブローカーを起動する

初期ブローカーを作成し、ロードバランサーを使用するように設定して、ブローカーから AMI を作成し、AMI を使用して残りのブローカーを起動します。これにより、すべてのブローカーが、同一の CA と同一のロードバランサー設定を使用するように設定されます。

ブローカーの起動方法

1. 初期ブローカーホストを起動して設定します。ブローカーのインストールと設定の詳細については、「[ステップ 2: Amazon DCV セッションマネージャーブローカーをセットアップする](#)」を参照してください。

Note

Application Load Balancer を使用しているため、ブローカーの自己署名証明書は必要ありません。

2. ブローカーに接続し、適切なテキストエディタを使用して `/etc/dcv-session-manager-broker/session-manager-broker.properties` ファイルを開き、以下を追加します。
 - a. 行の先頭にハッシュ (#) を付けることで `broker-to-broker-discovery-addresses` パラメータをコメントアウトします。
 - b. `broker-to-broker-discovery-aws-region` で、アプリケーションロードバランサーを作成したリージョンを入力します。
 - c. `broker-to-broker-discovery-aws-alb-target-group-arn` で、ブローカーのロードバランサーに関連付けられているターゲットグループの ARN を入力します。
 - d. ファイルを保存して閉じます。
3. ブローカーインスタンスを停止します。
4. 停止したブローカーインスタンスから AMI を作成します。詳細については、「Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[インスタンスからの Linux AMI の作成](#)」を参照してください。
5. AMI を使用して残りのブローカーを起動します。
6. 作成したインスタンスプロファイルをすべてのブローカーインスタンスに割り当てます。
7. ブローカーからブローカーへのネットワークトラフィックとブローカーからロードバランサーへのネットワークトラフィックを許可するセキュリティグループをすべてのブローカーインスタンスに割り当てます。ネットワークポートの詳細については、「[ブローカー設定ファイル](#)」をご参照ください。
8. すべてのブローカーインスタンスをブローカーロードバランサーのターゲットとして登録します。詳細については、「Application Load Balancer ユーザーガイド」の「[ターゲットグループへのターゲットの登録](#)」を参照してください。

ステップ 5: エージェントの Application Load Balancer を作成する

Application Load Balancer を作成してエージェントとブローカーのバランスを調整します。

ロードバランサーを作成する方法

1. Amazon EC2 コンソールの <https://console.aws.amazon.com/ec2/> を開いてください。
ナビゲーションペインで、[Load Balancers] (ロードバランサー) を選択し、[Create Load Balancer] (ロードバランサーの作成) を選択します。[load balance type] (ロードバランサーのタイプ) で、[Application Load Balancer] を選択します。
2. [Step 1: Configure Load Balancer] で、以下の操作を行います。

- a. [Name] (名前) に、対象のロードバランサーを表現した説明的な名前を入力します。
 - b. [Scheme] (スキーム) で、[internet-facing] (インターネット向け) を選択します。
 - c. [Load Balancer Protocol] (ロードバランサーのプロトコル) で [HTTPS] を選択し、[Load Balancer Port] (ロードバランサーのポート) に 8445 を入力します。
 - d. [VPC] で、使用する VPC を選択し、次にその VPC のサブネットを全て選択します。
 - e. [次へ] を選択します。
3. [Step 2: Configure Security Settings] (ステップ 2: セキュリティ設定を行う) で以下を実行します。
 - a. [Certificate type] (証明書のタイプ) で、[Choose a certificate from ACM] (ACM から証明書を選択する) を選択します。
 - b. [Certificate name] (証明書名) で、前の段階でリクエストしたプライベート証明書を選択します。
 - c. [次へ] を選択します。
 4. [Step 3: Configure Security Groups] (ステップ 3: セキュリティグループを設定する) で、新しいセキュリティグループを作成するか、または、HTTPS とポート 8445 でエージェントとブローカー間のインバウンドトラフィックとアウトバウンドトラフィックが可能な既存のセキュリティグループを選択します。

[次へ] を選択します。
 5. [Step 4: Configure Routing] (ステップ 4: ルーティングの設定) で、以下の操作を行います。
 - a. [Target group] (ターゲットグループ) で、[New target group] (新しいターゲットグループ) を選択します。
 - b. [名前] に、ターゲットグループの名前を入力します。
 - c. [Target type] (ターゲットタイプ) で [Instance] (インスタンス) を選択します。
 - d. [Protocol] (プロトコル) で [HTTPS] を選択します。[Port (ポート)] に「8445」と入力します。[Protocol version] (プロトコルバージョン) で [HTTP1] を選択します。
 - e. ヘルスチェックの [Protocol] (プロトコル) で、[HTTPS] を選択し、[Path] (パス) に /health を入力します。
 - f. [次へ] を選択します。
 6. [Step 5: Register Targets] (ステップ 5: ターゲットを登録する) で、ブローカーインスタンスをすべて選択し、[Add to registered] (登録済みに追加) を選択します。[次へ: レビュー] を選択します。

7. [作成] を選択します。

ステップ 6: エージェントの起動

初期エージェントを作成し、ロードバランサーを使用するように設定して、エージェントから AMI を作成し、AMI を使用して残りのエージェントを起動します。これにより、すべてのエージェントが、同一のロードバランサー設定を使用するように設定されます。

エージェントの起動方法

1. Amazon DCV サーバーを準備します。詳細については、「[ステップ 1: Amazon DCV サーバーを準備する](#)」を参照してください。
2. [ステップ 2: ロードバランサーの SSL 証明書を準備する](#) で作成した CA 公開鍵のコピーを配置します。すべてのユーザーが読み取り可能なディレクトリを選択または作成します。CA 公開鍵ファイルもすべてのユーザーが読み取り可能である必要があります。
3. エージェントをインストールして設定します。エージェントのインストールおよび設定の詳細については、「[ステップ 3: Amazon DCV セッションマネージャーエージェントをセットアップする](#)」を参照してください。

Important

エージェントの設定ファイルを作成して変更する場合

- broker_host パラメータには、エージェントロードバランサーの DNS を入力します。
- ca_file パラメータには、前のステップで作成した CA 公開鍵ファイルへのパスを入力します。

4. ブローカーを認証サーバーとして使用するよう Amazon DCV サーバーを設定します。詳細については、「[ステップ 4: ブローカーが認証サーバーとして使用されるよう Amazon DCV サーバーを設定する](#)」を参照してください。

Important

Amazon DCV サーバー設定ファイルに変更を加える場合:

- ca-file パラメータには、前のステップで使用したものと同一 CA 公開鍵ファイルパスを入力します。

- `auth-token-verifier` パラメータには、`broker_ip_or_dns` のエージェントロードバランサーの DNS を使用します。

5. エージェントインスタンスを停止します。
6. 停止したエージェントインスタンスから AMI を作成します。詳細については、「Linux インスタンス用 Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[インスタンスからの Linux AMI の作成](#)」を参照してください。
7. AMI を使用して残りのエージェントを起動し、作成したインスタンスプロファイルをそれらすべてのエージェントに割り当てます。
8. エージェントからロードバランサーへのネットワークトラフィックを許可するセキュリティグループをすべてのエージェントインスタンスに割り当てます。ネットワークポートの詳細については、「[エージェント設定ファイル](#)」を参照してください。

Amazon DCV サーバーをターゲットにするためのタグの使用

カスタムタグをセッションマネージャーエージェントに割り当てて、カスタムタグと、それらが関連付けられている Amazon DCV サーバーを識別して分類することができます。新しい Amazon DCV セッションを作成する場合、それぞれのエージェントに割り当てられたタグに基づいて、Amazon DCV サーバーのグループをターゲットにすることができます。エージェントタグに基づいて Amazon DCV サーバーをターゲットにする方法については、「セッションマネージャーデベロッパーガイド」の「[CreateSessionRequests](#)」を参照してください。

タグはタグのキーと値のペアで構成され、ユースケースや環境に適した情報ペアを使用できます。ホストのハードウェア設定に基づいて、エージェントへのタグ付けを選択できます。例えば、ホストに 4 GB のメモリが搭載されているすべてのエージェントに `ram=4GB` というタグを付けることができます。または、目的に応じてエージェントにタグを付けることもできます。例えば、本稼働用ホストで実行されているすべてのエージェントに `purpose=production` というタグを付けることができます。

エージェントにタグを割り当てる方法

1. 希望するテキストエディタを使用して新しいファイルを作成し、`agent_tags.toml` などの説明的な名前を付けます。ファイルタイプは `.toml` とし、ファイル内容は TOML ファイル形式で指定する必要があります。
2. ファイル内で、タグのキーと値の新しい各ペアを `key=value` 形式を使用して新しい行に追加します。例えば、次のようになります。

```
tag1="abc"  
tag2="xyz"
```

3. エージェント設定ファイル (/etc/dcv-session-manager-agent/agent.confLinux および macOS の場合は、Windows C:\Program Files\NICE\DCVSessionManagerAgent\conf\agent.confの場合は)を開きます。tags_folder で、タグファイルがあるディレクトリへのパスを指定します。

ディレクトリに複数のタグファイルが含まれている場合は、ファイル間で定義されたすべてのタグによってエージェントが適用されます。ファイルはアルファベット順に読み取られます。キーが同じタグが複数のファイルに含まれている場合、その値は、最後に読み取られたファイルの値で上書きされます。

4. ファイルを保存して閉じます。
5. エージェントを停止して再起動します。

- Windows

```
C:\> sc stop DcvSessionManagerAgentService
```

```
C:\> sc start DcvSessionManagerAgentService
```

- Linux

```
$ sudo systemctl stop dcv-session-manager-agent
```

```
$ sudo systemctl start dcv-session-manager-agent
```

- macOS

```
$ sudo launchctl unload /Library/LaunchDaemons/com.amazon.dcv.session-  
manager.agent.plist
```

```
$ sudo launchctl load /Library/LaunchDaemons/com.amazon.dcv.session-  
manager.agent.plist
```

外部認可サーバーの設定

認可サーバーとは、クライアント SDK とエージェントの認証および認可を行うサーバーです。

セッションマネージャーでは、デフォルトで、ブローカーを認可サーバーとして使用して、クライアント SDK の OAuth 2.0 アクセストークンと、エージェント用のソフトウェアステートメントを生成します。ブローカーを認可サーバーとして使用する場合、追加の設定は必要ありません。

外部認可サーバーとしてブローカーではなく Amazon Cognito を使用するようにセッションマネージャーを設定することができます。Amazon Cognito の詳細については、「[Amazon Cognito デベロッパーガイド](#)」を参照してください。

Amazon Cognito を認可サーバーとして使用するには

1. Amazon Cognito ユーザープールを作成します。詳細については、「Amazon Cognito デベロッパーガイド」の「[Amazon Cognito ユーザープール](#)」を参照してください。

[create-user-pool](#) コマンドを入力し、プール名と、プールを作成するリージョンを指定します。

この例では、プールに `dcv-session-manager-client-app` という名前を付けて、`us-east-1` でそれを作成します。

```
$ aws cognito-idp create-user-pool --pool-name dcv-session-manager-client-app --  
region us-east-1
```

出力例

```
{  
  "UserPoolClient": {  
    "UserPoolId": "us-east-1_QLEXAMPLE",  
    "ClientName": "dcv-session-manager-client-app",  
    "ClientId": "15hhd8jij74hf32f24uEXAMPLE",  
    "LastModifiedDate": 1602510048.054,  
    "CreationDate": 1602510048.054,  
    "RefreshTokenValidity": 30,  
    "AllowedOAuthFlowsUserPoolClient": false  
  }  
}
```

次のステップで必要になるため、`userPoolId` を書きとめておきます。

2. ユーザープールの新しいドメインを作成します。[create-user-pool-domain](#) コマンドを使用して、前のステップで作成したユーザープールのドメイン名と `userPoolId` を指定します。

この例では、ドメイン名を `mydomain-544fa30f-c0e5-4a02-8d2a-a3761EXAMPLE` とし、`us-east-1` でそれを作成します。

```
$ aws cognito-idp create-user-pool-domain --domain mydomain-544fa30f-c0e5-4a02-8d2a-a3761EXAMPLE --user-pool-id us-east-1_QLEXAMPLE --region us-east-1
```

出力例

```
{
  "DomainDescription": {
    "UserPoolId": "us-east-1_QLEXAMPLE",
    "AWSAccountId": "123456789012",
    "Domain": "mydomain-544fa30f-c0e5-4a02-8d2a-a3761EXAMPLE",
    "S3Bucket": "aws-cognito-prod-pdx-assets",
    "CloudFrontDistribution": "dpp0gtexample.cloudfront.net",
    "Version": "20201012133715",
    "Status": "ACTIVE",
    "CustomDomainConfig": {}
  }
}
```

ユーザープールドメインの形式は

`https://domain_name.auth.region.amazoncognito.com` です。この例では、ユーザープールのドメイン名は `https://mydomain-544fa30f-c0e5-4a02-8d2a-a3761EXAMPLE.auth.us-east-1.amazoncognito.com` です。

3. ユーザープールのクライアントを作成します。[create-user-pool-client](#) コマンドを使用して、作成したユーザープールの `userPoolId`、クライアント用の名前、これを作成するリージョンを指定します。さらに、作成するユーザープールクライアントのシークレットを生成するかどうかを指定する `--generate-secret` オプションを含めます。

この場合、クライアント名は `dcv-session-manager-client-app` で、`us-east-1` リージョンでそれを作成します。

```
$ aws cognito-idp create-user-pool-client --user-pool-id us-east-1_QLEXAMPLE --client-name dcv-session-manager-client-app --generate-secret --region us-east-1
```

出力例

```
{
  "UserPoolClient": {
    "UserPoolId": "us-east-1_QLEXAMPLE",
    "ClientName": "dcv-session-manager-client-app",
    "ClientId": "2l9273hp6k2ut5cugg9EXAMPLE",
    "ClientSecret": "1vp5e8nec7cbf4m9me55mbmht91u61hlh0a78rq1qki1lEXAMPLE",
    "LastModifiedDate": 1602510291.498,
    "CreationDate": 1602510291.498,
    "RefreshTokenValidity": 30,
    "AllowedOAuthFlowsUserPoolClient": false
  }
}
```

Note

ClientId と ClientSecret を書きとめておきます。デベロッパーが API リクエストのアクセストークンをリクエストしたときに、この情報の提供が必要になります。

4. ユーザープール用の新しい OAuth 2.0 リソースサーバーを作成します。リソースサーバーは、アクセス保護されたリソース用のサーバーです。アクセストークンの認証リクエストが処理されます。

[create-resource-server](#) コマンドを使用して、ユーザープールの userPoolId、リソースサーバーの一意の識別子と名前、スコープ、ユーザープールを作成するリージョンを指定します。

この例では、dcv-session-manager を識別子と名前として使用し、sm_scope をスコープの名前と説明として使用します。

```
$ aws cognito-idp create-resource-server --user-pool-id us-east-1_QLEXAMPLE
--identifier dcv-session-manager --name dcv-session-manager --scopes
ScopeName=sm_scope,ScopeDescription=sm_scope --region us-east-1
```

出力例

```
{
  "ResourceServer": {
    "UserPoolId": "us-east-1_QLEXAMPLE",
```

```

    "Identifier": "dcv-session-manager",
    "Name": "dcv-session-manager",
    "Scopes": [
      {
        "ScopeName": "sm_scope",
        "ScopeDescription": "sm_scope"
      }
    ]
  }
}

```

5. ユーザープールのクライアントを更新します。

[update-user-pool-client](#) コマンドを使用します。ユーザープールの `userPoolId`、ユーザープールのクライアントの `ClientId`、リージョンを指定します。--allowed-o-auth-flows の場合、クライアント ID とクライアントシークレットを併用することで、クライアントがトークンエンドポイントからアクセストークンを取得することを示すために `client_credentials` を指定します。--allowed-o-auth-scopes の場合、リソースサーバー識別子とスコープ名として `resource_server_identifier/scope_name` を指定します。クライアントが Cognito ユーザープールとの通信時に OAuth プロトコルに従うことを許可されていることを示すために --allowed-o-auth-flows-user-pool-client を含めます。

```

$ aws cognito-idp update-user-pool-client --user-pool-id us-east-1_QLEXAMPLE --
client-id 2l9273hp6k2ut5cugg9EXAMPLE --allowed-o-auth-flows client_credentials --
allowed-o-auth-scopes dcv-session-manager/sm_scope --allowed-o-auth-flows-user-
pool-client --region us-east-1

```

出力例

```

{
  "UserPoolClient": {
    "UserPoolId": "us-east-1_QLEXAMPLE",
    "ClientName": "dcv-session-manager-client-app",
    "ClientId": "2l9273hp6k2ut5cugg9EXAMPLE",
    "ClientSecret": "1vp5e8nec7cbf4m9me55mbmht91u61hlh0a78rq1qki1lEXAMPLE",
    "LastModifiedDate": 1602512103.099,
    "CreationDate": 1602510291.498,
    "RefreshTokenValidity": 30,
    "AllowedOAuthFlows": [
      "client_credentials"
    ],
    "AllowedOAuthScopes": [

```

```

        "dcv-session-manager/sm_scope"
    ],
    "AllowedOAuthFlowsUserPoolClient": true
}
}

```

Note

これで、ユーザープールによるアクセストークンの提供と認証を行う準備が整いました。この例では、認可サーバーの URL は `https://cognito-idp.us-east-1.amazonaws.com/us-east-1_QLEXAMPLE/.well-known/jwks.json` です。

6. 設定をテストします。

```

$ curl -H "Authorization: Basic `echo -
n 2l9273hp6k2ut5cugg9EXAMPLE:1vp5e8nec7cbf4m9me55mbmht91u61hlh0a78rq1qki1lEXAMPLE
| base64`" -H "Content-Type: application/x-www-form-urlencoded" -X
POST "https://mydomain-544fa30f-c0e5-4a02-8d2a-a3761EXAMPLE.auth.us-
east-1.amazoncognito.com/oauth2/token?grant_type=client_credentials&scope=dcv-
session-manager/sm_scope"

```

出力例

```

{
  "access_token": "eyJraWQiOiJGQ0VaRFpJUUpT3NSaW41MmtqaDdEbTZYb0RnSTQ5b2VUT0cxUUU1Q2VJPSIsImF
Zkfi0HIDsd6audjTXKzHlZGScr6R0dZtId5dThkpEZiSx0YwiiWe9crAlqoazlDcCsUJHIXDtgKW64pSj3-
uQQGg1Jv_tyVjhrA4JbD0k67WS2V9NW-
uZ7t4zwwaUm0i3KzpBmi54fpVgPaewiVlUm_aS4LUFcWT6hVJjiZF7om7984qb2g0a14iZxpXPBJTZX_gtG9EtvnS9u
",
  "expires_in": 3600,
  "token_type": "Bearer"
}

```

7. [register-auth-server](#) コマンドを使用して、ブローカーに使用する外部認可サーバーを登録します。

```

$ sudo -u root dcv-session-manager-broker register-auth-server --url https://
cognito-idp.us-east-1.amazonaws.com/us-east-1_QLEXAMPLE/.well-known/jwks.json

```

これで、デベロッパーがサーバーを使用してアクセストークンをリクエストできるようになりました。アクセストークンをリクエストするときは、ここで生成されたクライアント ID、クライアントシークレット、およびサーバー URL を提供します。アクセストークンのリクエストの詳細については、「Amazon DCV セッションマネージャーデベロッパーガイド」の「[アクセストークンを取得して API リクエストを行う](#)」を参照してください。

ブローカー永続性の設定

セッションマネージャーのブローカーは、外部データベースとの統合に対応しています。外部データベースを使用すると、セッションマネージャーでステータスデータとキーを後で利用できるように永続化することができます。実際、ブローカーデータはクラスターに分散されるため、ホストの再起動が必要な場合やクラスターが終了した場合に、データ損失の影響を受けやすくなります。この機能を有効にすると、ブローカーノードの追加と削除が可能になります。また、クラスターの停止や再起動を行っても、キーを再生成する必要もなく、Amazon DCV サーバーの開閉に関する情報が失われることはありません。

以下のタイプの情報が永続化されるように設定することができます。

- クライアントとの接続を確立するためのセッション設定用キー
- インフライトセッションデータ
- Amazon DCV サーバーのステータス

Amazon DCV セッションマネージャーでは、DynamoDB、MariaDB、MySQL のデータベースがサポートされています。この機能を使用するには、これらのデータベースの 1 つをセットアップして管理する必要があります。ブローカーマシンが Amazon EC2 でホストされている場合は、追加のセットアップが不要であるため、外部データベースとして DynamoDB を使用することをお勧めします。

Note

外部データベースを実行すると追加コストが発生する可能性があります。DynamoDB 料金の詳細については、「[プロビジョンドキャパシティの料金](#)」を参照してください。

DynamoDB で永続化されるようにブローカーを設定する

DynamoDB へのデータ保存が開始されるようにブローカーを設定します。

1. 任意のテキストエディタを使用して `/etc/dcv-session-manager-broker/session-manager-broker.properties` を開き、以下を実行します。
 - `enable-persistence = true` を設定する
 - `persistence-db = dynamodb` を設定する
 - `dynamodb-region` の場合、ブローカーデータが含まれているテーブルを保存する `&aws;` リージョンを指定します。サポートされているリージョンのリストについては、「[DynamoDB サービスエンドポイント](#)」を参照してください。
 - `dynamodb-table-rcu` の場合、各テーブルでサポートされている読み取りキャパシティーユニット (RCU) の量を指定します。RCU の詳細については、「[DynamoDB プロビジョンドキャパシティー](#)」を参照してください。
 - `dynamodb-table-wcu` の場合、各テーブルでサポートされている書き込みキャパシティーユニット (WCU) の量を指定します。WCU の詳細については、「[DynamoDB プロビジョンドキャパシティー](#)」を参照してください。
 - `dynamodb-table-name-prefix` の場合、各 DynamoDB テーブルに追加されるプレフィックスを指定します (同じアカウントを使用して複数のブローカークラスターを識別する際に便利です)。英数字、ドット、ダッシュ、下線のみを使用できます。
2. クラスター内のすべてのブローカーを停止します。ブローカーごとに次のコマンドを実行します。

```
sudo systemctl stop dcv-session-manager-broker
```

3. クラスター内のすべてのブローカーが停止していることを確認した上で、すべてのブローカーを再起動します。次のコマンドを実行して各ブローカーを開始します。

```
sudo systemctl start dcv-session-manager-broker
```

ブローカーのホストには、DynamoDB API を呼び出すためのアクセス許可が必要です。Amazon EC2 インスタンスでは、認証情報は、Amazon EC2 メタデータサービスを使用して自動的に取得されます。異なる認証情報を指定する必要がある場合は、サポートされている認証情報取得方法 (Java システムプロパティや環境変数など) のいずれかを使用してそれらを設定することができます。詳細については、「[認証情報の提供と取得](#)」を参照してください。

MariaDB/MySQL で永続化させるためにブローカーを設定する

Note

/etc/dcv-session-manager-broker/session-manager-broker.properties ファイルには機密データが含まれています。デフォルトでは、書き込みアクセスはルートに制限され、読み取りアクセスはルートおよびブローカーを実行しているユーザーに制限されます。デフォルトでは、これは dcvsmbroker ユーザーです。ブローカーのスタートアップ時に、期待される許可がファイルに含まれていることが確認されます。

MariaDB/MySQL でデータの永続化を開始するためにブローカーを設定します。

1. 任意のテキストエディタで /etc/dcv-session-manager-broker/session-manager-broker.properties を開き、以下の編集を行います。
 - enable-persistence = true を設定する
 - persistence-db = mysql を設定する
 - jdbc-connection-url = jdbc:mysql://<db_endpoint>:<db_port>/<db_name>?createDatabaseIfNotExist=true を設定する

この設定では、<db_endpoint> はデータベースエンドポイント、<db_port> はデータベースポート、<db_name> はデータベース名です。

 - jdbc-user について、データベースにアクセスできるユーザーの名前を指定します。
 - jdbc-password について、データベースにアクセスできるユーザーのパスワードを指定します。
2. クラスター内のすべてのブローカーを停止します。ブローカーごとに次のコマンドを実行します。

```
sudo systemctl stop dcv-session-manager-broker
```

3. クラスター内のすべてのブローカーが停止していることを確認した上で、すべてのブローカーを再起動します。ブローカーごとに次のコマンドを実行します。

```
sudo systemctl start dcv-session-manager-broker
```

Amazon DCV Connection Gateway との統合

[Amazon DCV Connection Gateway](#) は、ユーザーが LAN または VPC への単一のアクセスポイントを通じて Amazon DCV サーバーフリートにアクセスできるようにする、インストール可能なソフトウェアパッケージです。

インフラストラクチャに Amazon DCV Connection Gateway 経由でアクセス可能な Amazon DCV サーバーが含まれている場合は、Amazon DCV Connection Gateway を統合するようにセッションマネージャーを構成できます。以下のセクションで説明する手順を実行すると、ブローカーは接続ゲートウェイの[セッションリゾルバー](#)として機能します。つまり、ブローカーは追加の HTTP エンドポイントを公開します。Connection Gateway はエンドポイントに対して API コールを行い、ブローカーが選択したホストに Amazon DCV 接続をルーティングするために必要な情報を取得します。

トピック

- [セッションマネージャーブローカーを Amazon DCV Connection Gateway のセッションリゾルバーとして設定](#)
- [オプション - TLS クライアント認証の有効化](#)
- [Amazon DCV セッションマネージャー Amazon DCV サーバー - DNS マッピングリファレンス](#)

セッションマネージャーブローカーを Amazon DCV Connection Gateway のセッションリゾルバーとして設定

セッションマネージャーブローカー側

1. 任意のテキストエディタを使用して `/etc/dcv-session-manager-broker/session-manager-broker.properties` を開き、以下の変更を適用します。
 - `enable-gateway = true` を設定する
 - `gateway-to-broker-connector-https-port` を空いている TCP ポートに設定する (デフォルトは 8447)
 - `gateway-to-broker-connector-bind-host` を Amazon DCV Connection Gateway の接続のためにブローカーによりバインドされるホストの IP アドレスに設定する (デフォルトは 0.0.0.0)
2. 次に、以下のコマンドを実行して Broker を停止し、再起動します。

```
sudo systemctl stop dcv-session-manager-broker
```

```
sudo systemctl start dcv-session-manager-broker
```

3. ブローカーの自己署名証明書のコピーを取得し、ユーザーディレクトリに入れます。

```
sudo cp /var/lib/dcvsmbroker/security/dcvsmbroker_ca.pem $HOME
```

これは、次のステップで Amazon DCV Connection Gateway をインストールするときに必要になります。

Amazon DCV Connection Gateway 側

- Amazon DCV Connection Gateway のドキュメントの[セクション](#)に従ってください。

Amazon DCV Connection Gateway はブローカーに対して HTTP API コールを行うため、ブローカーが自己署名証明書を使用している場合はブローカーの証明書を Amazon DCV Connection Gateway のホスト (前のステップで取得) にコピーし、Amazon DCV Connection Gateway 構成の [resolver] セクションでパラメータを ca-file に設定する必要があります。

オプション - TLS クライアント認証の有効化

前のステップを完了すると、セッションマネージャーと接続ゲートウェイは安全なチャネルを介して通信できるようになり、接続ゲートウェイはセッションマネージャブローカーの識別情報を確認できます。安全なチャネルを確立する前にセッションマネージャブローカーにも接続ゲートウェイの識別情報を確認させる必要がある場合は、次のセクションの手順に従って TLS クライアント認証機能を有効にする必要があります。

Note

セッションマネージャーがロードバランサーの背後にある場合、Application Load Balancer (ALB) やゲートウェイロードバランサー (GLB) などの TLS 接続終了機能のあるロードバランサーでは TLS クライアント認証を有効にできません。サポートされるのは、ネットワークロードバランサー (NLB) などの TLS 終了機能を搭載していないロードバランサーのみです。ALB または GLB を使用する場合は、特定のセキュリティグループのみがロードバランサーに接続できるように設定して、セキュリティレベルを高めることができます。セキュリティグループの詳細については、「[VPC のセキュリティグループ](#)」をご覧ください。

セッションマネージャブローカー側

1. セッションマネージャブローカーと Amazon DCV Connection Gateway 間の通信で TLS クライアント認証を有効にするには、次の手順に従ってください。
2. 以下のコマンドを実行して、必要なキーと証明書を生成します。コマンドの出力には、認証情報が生成されたフォルダと、TrustStore ファイルの作成に使用されたパスワードが表示されます。

```
sudo /usr/share/dcv-session-manager-broker/bin/gen-gateway-certificates.sh
```

3. Amazon DCV Connection Gateway のプライベートキーと自己署名証明書のコピーをユーザーディレクトリに入れます。これは、次のステップで、Amazon DCV Connection Gateway で TLS クライアント認証を有効にするときに必要になります。

```
sudo cp /etc/dcv-session-manager-broker/resolver-creds/dcv_gateway_key.pem $HOME
```

```
sudo cp /etc/dcv-session-manager-broker/resolver-creds/dcv_gateway_cert.pem $HOME
```

4. 次に、任意のテキストエディタを使用して /etc/dcv-session-manager-broker/session-manager-broker.properties を開き、以下を実行します。
 - enable-tls-client-auth-gateway を true に設定します。
 - gateway-to-broker-connector-trust-store-file を前のステップで作成した TrustStore ファイルのパスに設定します
 - gateway-to-broker-connector-trust-store-pass を前のステップで TrustStore ファイルの作成に使用したパスワードに設定します。
5. 次に、以下のコマンドを実行して Broker を停止し、再起動します。

```
sudo systemctl stop dcv-session-manager-broker
```

```
sudo systemctl start dcv-session-manager-broker
```

Amazon DCV Connection Gateway 側

- Amazon DCV Connection Gateway のドキュメントの[セクション](#)に従ってください。
- [resolver] セクションで cert-file パラメータを設定するときは、前のステップでコピーした証明書ファイルのフルパスを使用します

- [resolver] セクションで cert-key-file パラメーターを設定するときは、前のステップでコピーしたキーファイルのフルパスを使用します

Amazon DCV セッションマネージャー Amazon DCV サーバー - DNS マッピングリファレンス

Amazon DCV Connection Gateway は、DCV サーバーインスタンスに接続するために Amazon DCV サーバーの DNS 名を必要とします。このセクションでは、各 DCV サーバーと、関連する DNS 名とのマッピングを含む JSON ファイルを定義する方法を説明します。

ファイル構造

マッピングは、次のフィールドを持つ JSON オブジェクトのリストで構成されます。

```
[
  {
    "ServerIdType": "Ip",
    "ServerId": "192.168.0.1",
    "DnsNames":
    {
      "InternalDnsName": "internal"
    }
  },
  ...
]
```

コードの説明は以下のとおりです。

ServerIdType:

値がどのタイプの ID を参照しているかを示します。現在使用可能な値は IPAddress、AgentServerID、および instanceId です。

Ip:

Amazon EC2 インフラストラクチャとオンプレミスインフラストラクチャの両方で使用できます。システム管理者は ifconfig (Linux/macOS) または ipconfig (Windows) コマンドを使用してすばやく取得できます。この情報は DescribeServers API レスポンスでも確認できます。

Id:

Amazon EC2 とオンプレミスの両方のインフラストラクチャで使用できます。セッションマネージャーエージェントは、ホスト名または IP アドレスが変更されるたびに新しい UUID を作成します。この情報は DescribeServers API レスポンスで確認できます。

Host.Aws.Ec2InstanceId:

Amazon EC2 インスタンスでのみ使用でき、マシンを一意に識別します。インスタンスの再起動後も変更されません。http://169.254.169.254/latest/meta-data/instance-id に問い合わせることで、ホスト上で取得できます。この情報は DescribeServers API レスポンスでも確認できます。

ServerId:

ネットワーク内の各 Amazon DCV サーバーを一意に識別する、指定されたタイプの ID。

DnsNames:

Amazon DCV サーバーに関連付けられた DNS 名を含むオブジェクトです。このオブジェクトには以下が含まれます。

InternalDnsNames:

Amazon DCV Connection Gateway がインスタンスへの接続に使用する DNS 名。

ファイルからマッピングをロードするにはセッションマネージャーブローカー CLI コマンド `register-server-dns-mapping` (コマンドページリファレンス: [register-server-dns-mapping](#))、セッションマネージャーブローカーに現在ロードされているマッピングを一覧表示するには `describe-server-dns-mappings` を使用してください (コマンドページリファレンス: [describe-server-dns-mappings](#))。

永続的

複数のブローカーまたはクラスター全体がダウンした場合にマッピングが失われないように、セッションマネージャーブローカーの永続化機能を有効にすることを強くお勧めします。データ永続化の有効化について詳しくは、「[ブローカーの永続化の設定](#)」を参照してください。

Amazon CloudWatch との統合

セッションマネージャーでは、Amazon EC2 インスタンスで実行されているブローカー用 Amazon CloudWatch と、オンプレミスのホストで実行されているブローカーとの統合がサポートされています。

Amazon CloudWatch は、Amazon Web Services (AWS) リソースと、AWS で実行されているアプリケーションをリアルタイムでモニターリングします。CloudWatch を使用してメトリクスを収集し、追跡できます。メトリクスとは、リソースやアプリケーションに関して測定できる変数です。詳細については、[Amazon CloudWatch ユーザーガイド](#)を参照してください。

次のメトリクスデータが Amazon CloudWatch に送信されるように、セッションマネージャークローカーを設定することができます。

- `Number of DCV servers` — ブローカーによって管理されている DCV サーバーの数。
- `READY` — ブローカーによって管理されており `Number of ready DCV servers` 状態にある DCV サーバーの数。
- `Number of DCV sessions` — ブローカーによって管理されている DCV セッションの数。
- `Number of DCV console sessions` — ブローカーによって管理されている DCV コンソールセッションの数。
- `Number of DCV virtual sessions` — ブローカーによって管理されている DCV 仮想セッションの数。
- `Heap memory used` — ブローカーによって使用されているヒープメモリの量。
- `Off-heap memory used` — ブローカーによって使用されるオフヒープメモリの量。
- `Describe sessions request time` — `DescribeSessions` API リクエストの完了に要した時間。
- `Delete sessions request time` — `DeleteSessions` API リクエストの完了に要した時間。
- `Create sessions request time` — `CreateSessions` API リクエストの完了に要した時間。
- `Get session connection data request time` — `GetSessionConnectionData` API リクエストの完了に要した時間。
- `Update session permissions request time` — `UpdateSessionPermissions` API リクエストの完了に要した時間。

Amazon CloudWatch にメトリクスデータが送信されるようにブローカーを設定する方法

1. 任意のテキストエディタを使用して `/etc/dcv-session-manager-broker/session-manager-broker.properties` ファイルを開き、以下を実行します。
 - `enable-cloud-watch-metrics` を `true` に設定します。
 - `cloud-watch-region` の場合、メトリクスデータを収集するリージョンを指定します。

 Note

ブローカーが Amazon EC2 インスタンスで実行されている場合、このパラメータはオプションです。このリージョンは、インスタンスメタデータサービス (IMDS) から自動的に取得されます。ブローカーをオンプレミスのホストで実行している場合、このパラメータは必須です。

2. ブローカーを停止して再起動します。

```
$ sudo systemctl stop dcv-session-manager-broker
```

```
$ sudo systemctl start dcv-session-manager-broker
```

ブローカーホストには `cloudwatch:PutMetricData` API を呼び出すアクセス許可も必要です。AWS 認証情報は、サポートされている認証情報取得方法のいずれかを使用して取得することができます。詳細については、「[AWS 認証情報の提供と取得](#)」を参照してください。

Amazon DCV セッションマネージャーのアップグレード

Amazon DCV システムの規模と複雑さが増すにつれて、セッションマネージャーが常に最新の状態を維持し、増加する需要に対応できることを確認することが重要です。エージェントパッケージとブローカーパッケージの両方が、随時アップグレードする必要があります。このセクションでは、Amazon DCV セッションマネージャーをアップグレードするプロセスの概要を説明し、システムを維持するためのアップグレード手順と推奨事項について説明します。

次のトピックでは、セッションマネージャーをアップグレードする方法について説明します。

Note

セッションマネージャーブローカーをアップグレードする前に、すべてのセッションマネージャーエージェントをアップグレードすることを強くお勧めします。これは、新機能導入の際に互換性の問題が発生するのを避けるためです。

トピック

- [Amazon DCV セッションマネージャーエージェントのアップグレード](#)
- [Amazon DCV セッションマネージャーブローカーのアップグレード](#)

Amazon DCV セッションマネージャーエージェントのアップグレード

Amazon DCV セッションマネージャーエージェントは、ブローカーからの指示を受信し、それぞれの Amazon DCV サーバーでそれらを実行します。定期的なメンテナンスの一環として、エージェントは新しい標準と要件を満たすようにアップグレードする必要があります。このセクションでは、セッションマネージャーエージェントのアップグレードプロセスについて説明します。

Linux host

Note

以下は、64 ビット x86 ホストにエージェントをインストールする手順です。64 ビット ARM ホストへのエージェントのインストールについて、Amazon Linux、RHEL、Centos の場合は **x86_64** が aarch64 になり、Ubuntu の場合は **amd64** が arm64 になります。

Linux ホストでエージェントを更新するには

1. 次のコマンドを実行してエージェントを停止します。

```
$ sudo systemctl stop dcv-session-manager-agent
```

2. インストールパッケージをダウンロードします。

- Amazon Linux 2 と RHEL 7.x

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.el7.x86_64.rpm
```

- RHEL 8.x と Rocky Linux 8.x

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.el8.x86_64.rpm
```

- Ubuntu 20.04

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent_2025.0.888-1_amd64.ubuntu2004.deb
```

- Ubuntu 22.04

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent_2025.0.888-1_amd64.ubuntu2204.deb
```

- Ubuntu 24.04

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent_2025.0.888-1_amd64.ubuntu2404.deb
```

- SUSE Linux Enterprise 12

```
$ curl -O https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.sles12.x86_64.rpm
```

- SUSE Linux Enterprise 15

```
$ curl -O https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.sles15.x86_64.rpm
```

3. パッケージをインストールします。

- Amazon Linux 2 と RHEL 7.x

```
$ sudo yum install -y nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.el7.x86_64.rpm
```

- RHEL 8.x と Rocky Linux 8.x

```
$ sudo yum install -y nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.el8.x86_64.rpm
```

- Ubuntu 20.04

```
$ sudo apt install ./nice-dcv-session-manager-agent_2025.0.888-1_amd64.ubuntu2004.deb
```

- Ubuntu 22.04

```
$ sudo apt install ./nice-dcv-session-manager-agent_2025.0.888-1_amd64.ubuntu2204.deb
```

- Ubuntu 24.04

```
$ sudo apt install ./nice-dcv-session-manager-agent_2025.0.888-1_amd64.ubuntu2404.deb
```

- SUSE Linux Enterprise 12

```
$ sudo zypper install nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.sles12.x86_64.rpm
```

- SUSE Linux Enterprise 15

```
$ sudo zypper install nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-1.sles15.x86_64.rpm
```

4. エージェントを開始するには、次のコマンドを実行します。

```
$ sudo systemctl start dcv-session-manager-agent
```

Windows host

Windows ホストでエージェントを更新するには

1. エージェントのサービスを停止します。コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
C:\> sc stop DcvSessionManagerAgentService
```

2. [エージェントインストーラー](#)をダウンロードします。
3. インストーラーを実行します。ようこそ画面で、[Next] を選択します。
4. [EULA] 画面で、使用許諾書をしっかりと読んだ上で、条件に同意する場合は [I accept the terms] (同意します) を選択し、[Next] (次へ) を選択します。
5. インストールを開始するには [Install] (インストール) を選択します。
6. エージェントのサービスを再起動します。コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
C:\> sc start DcvSessionManagerAgentService
```

macOS host

macOS ホストでエージェントを更新するには

1. 次のコマンドを実行してエージェントを停止します。

```
$ sudo launchctl unload /Library/LaunchDaemons/com.amazon.dcv.session-manager.agent.plist
```

2. [エージェントインストーラ](#)をダウンロードするか、コマンドラインを使用します。

```
$ curl -O https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerAgents/nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-macos-arm64.pkg
```

3. パッケージをインストールします。コマンドラインを使用するか、エージェントインストーラーを介して使用できます。

- コマンドライン:

```
$ sudo installer -pkg ./nice-dcv-session-manager-agent-2025.0.888-macos-arm64.pkg -target /
```

- グラフィカル: .pkg ファイルをダブルクリックし、インストールウィザードに従います。

4. エージェントを開始するには、次のコマンドを実行します。

```
$ sudo launchctl load /Library/LaunchDaemons/com.amazon.dcv.session-manager.agent.plist
```

Amazon DCV セッションマネージャークローカーのアップグレード

Amazon DCV セッションマネージャークローカーは、関連するエージェントに API リクエストを渡します。これらは Amazon DCV サーバーとは別のホストにインストールされます。定期的なメンテナンスの一環として、ブローカーは新しい標準と要件を満たすためにアップグレードする必要があります。このセクションでは、セッションマネージャークローカーのアップグレードプロセスについて説明します。

ブローカーをアップグレードするには

1. ブローカーをアップグレードするホストに接続します。
2. ブローカーのサービスを停止します。

```
$ sudo systemctl stop dcv-session-manager-broker
```

3. インストールパッケージをダウンロードします。

- Amazon Linux 2 と RHEL 7.x

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerBrokers/nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1.el7.noarch.rpm
```

- RHEL 8.x と Rocky Linux 8.x

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerBrokers/nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1.el8.noarch.rpm
```

- Ubuntu 20.04

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerBrokers/nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1_all.ubuntu2004.deb
```

- Ubuntu 22.04

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerBrokers/nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1_all.ubuntu2204.deb
```

- Ubuntu 24.04

```
$ wget https://d1uj6qtbmh3dt5.cloudfront.net/2025.0/SessionManagerBrokers/nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1_all.ubuntu2404.deb
```

4. パッケージをインストールします。

- Amazon Linux 2 と RHEL 7.x

```
$ sudo yum install -y nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1.el7.noarch.rpm
```

- RHEL 8.x と Rocky Linux 8.x

```
$ sudo yum install -y nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1.el8.noarch.rpm
```

- Ubuntu 20.04

```
$ sudo apt install -y nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1_all.ubuntu2004.deb
```

- Ubuntu 22.04

```
$ sudo apt install -y nice-dcv-session-manager-broker-2025.0.539-1_all.ubuntu2204.deb
```

- Ubuntu 24.04

```
$ sudo apt install -y nice-dcv-session-manager-  
broker-2025.0.539-1_all.ubuntu2404.deb
```

5. ブローカーサービスを開始し、インスタンスを起動するたびにブローカーサービスが自動的に起動することを確認します。

```
$ sudo systemctl start dcv-session-manager-broker && sudo systemctl enable dcv-  
session-manager-broker
```

ブローカー CLI リファレンス

Amazon DCV セッションマネージャーブローカーは、セッションマネージャーを管理するためのコマンドラインインターフェイス (CLI) ツールです。このリファレンスでは、セッション、ユーザー、リソース、およびセッションマネージャーのその他の側面の管理に使用できる CLI コマンドの完全なセットについて説明します。管理者は、日常的な管理タスクを自動化し、問題のトラブルシューティングを行い、Amazon DCV インフラストラクチャのパフォーマンスを最適化できます。

外部認証サーバーを使用して OAuth 2.0 アクセストークンを生成する場合は、次のコマンドを使用します。

- [register-auth-server](#)
- [list-auth-servers](#)
- [unregister-auth-server](#)

OAuth 2.0 認証サーバーとしてセッションマネージャーブローカーを使用する場合は、次のコマンドを使用します。

- [register-api-client](#)
- [describe-api-clients](#)
- [unregister-api-client](#)
- [renew-auth-server-api-key](#)

次のコマンドを使用して、セッションマネージャーエージェントを管理します。

- [generate-software-statement](#)
- [describe-software-statements](#)
- [deactivate-software-statement](#)
- [describe-agent-clients](#)
- [unregister-agent-client](#)

DCV サーバーと DNS 名のマッピングファイルを管理するには、次のコマンドを使用します。

- [register-server-dns-mappings](#)

- [describe-server-dns-mappings](#)

register-auth-server

ブローカーで使用する外部認証サーバーを登録します。

デフォルトでは、セッションマネージャーはブローカーを認証サーバーとして使用し、OAuth 2.0 アクセストークンを生成します。ブローカーを認証サーバーとして使用する場合、追加の設定は必要ありません。

ただし、アクティブディレクトリや Amazon Cognito などの外部認証サーバーの使用を選択した場合は、このコマンドを使用して外部認証サーバーを登録する必要があります。

トピック

- [構文](#)
- [オプション](#)
- [例](#)

構文

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker register-auth-server --url server_url.well-known/jwks.json
```

オプション

--url

使用する外部認証サーバーの URL。認証サーバーの URL に `.well-known/jwks.json` を付加する必要があります。

タイプ: 文字列

必須: はい

例

次の例では、外部認証サーバーを `https://my-auth-server.com/` の URL に登録します。

--コマンド:

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker register-auth-server --url https://my-auth-server.com/.well-known/jwks.json
```

出力

```
Jwk url registered.
```

list-auth-servers

登録されている外部認証サーバーを一覧表示します。

トピック

- [構文](#)
- [Output](#)
- [例](#)

構文

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker list-auth-servers
```

Output

Urls

登録された外部認証サーバーの URL。

例

次の例では、登録されているすべての外部認証サーバーを一覧表示します。

--コマンド:

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker list-auth-servers
```

出力

```
Urls: [ "https://my-auth-server.com/.well-known/jwks.json" ]
```

unregister-auth-server

外部認証サーバーの登録を解除します。外部認証サーバーは、その登録を解除すると、OAuth 2.0 アクセストークンの生成に使用できなくなります。

トピック

- [構文](#)
- [オプション](#)
- [Output](#)
- [例](#)

構文

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker unregister-auth-server --url server_url.well-known/jwks.json
```

オプション

--url

登録を解除する外部認証サーバーの URL。認証サーバーの URL に `.well-known/jwks.json` を付加する必要があります。

タイプ: 文字列

必須: はい

Output

Url

登録を解除した外部認証サーバの URL。

例

次の例では、外部認証サーバーを `https://my-auth-server.com/` の URL に登録します。

--コマンド:

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker unregister-auth-server --url https://my-auth-server.com/.well-known/jwks.json
```

出力

```
Jwk urlhttps://my-auth-server.com/.well-known/jwks.json unregistered
```

register-api-client

セッションマネージャークライアントをブローカーに登録してクライアント認証情報を生成します。この情報は、API リクエストの実行に必要な OAuth 2.0 アクセストークンを取得するためにクライアントで使用されます。

Important

認証情報は必ず安全な場所に保存してください。後で復元することはできません。

このコマンドは、ブローカーが OAuth 2.0 認証サーバーとして使用される場合にのみ使用されます。

トピック

- [構文](#)
- [オプション](#)
- [Output](#)
- [例](#)

構文

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker register-api-client --client-name client_name
```

オプション

--name

セッションマネージャークライアントを識別するために使用される一意の名前。

タイプ: 文字列

必須: はい

Output

client-id

OAuth 2.0 アクセストークンの取得のためにセッションマネージャークライアントにより使用される一意のクライアント ID。

client-password

OAuth 2.0 アクセストークンの取得のためにセッションマネージャークライアントにより使用されるパスワード。

例

次の例では、my-sm-client という名前のクライアントを登録します。

--コマンド:

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker register-api-client --client-name my-sm-client
```

出力

```
client-id: 21cfe9cf-61d7-4c53-b1b6-cf248EXAMPLE
client-password: NjVmZDRlN2ItNjNmYS00M2QxLWF1ZmMtZmNmMDNkMEXAMPLE
```

describe-api-clients

ブローカーに登録されているセッションマネージャークライアントを一覧表示します。

トピック

- [構文](#)
- [Output](#)
- [例](#)

構文

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker describe-api-clients
```

Output

name

セッションマネージャークライアントの一意の名前。

id

セッションマネージャークライアントの一意の ID。

active

セッションマネージャークライアントのステータスを示します。クライアントがアクティブな場合、値は true になり、それ以外の場合は false になります。

例

次の例では、登録されているセッションマネージャークライアントの一覧を示します。

--コマンド:

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker describe-api-clients
```

出力

```
Api clients
[ {
  "name" : "client-abc",
  "id" : "f855b54b-40d4-4769-b792-b727bEXAMPLE",
  "active" : false
}, {
  "name" : "client-xyz",
```

```
"id" : "21cfe9cf-61d7-4c53-b1b6-cf248EXAMPLE",  
"active" : true  
}]
```

unregister-api-client

登録済みのセッションマネージャークライアントを非アクティブ化します。非アクティブ化されたセッションマネージャークライアントでは、その認証情報を使用して OAuth 2.0 アクセストークンを取得できなくなります。

トピック

- [構文](#)
- [オプション](#)
- [例](#)

構文

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker unregister-api-client --client-id client_id
```

オプション

--client -id

非アクティブ化するセッションマネージャークライアントの ID。

タイプ: 文字列

必須: はい

例

次の例では、クライアント ID が f855b54b-40d4-4769-b792-b727bEXAMPLE であるセッションマネージャークライアントを非アクティブ化します。

--コマンド:

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker unregister-api-client --client-id  
f855b54b-40d4-4769-b792-b727bEXAMPLE
```

出力

```
Client f855b54b-40d4-4769-b792-b727bEXAMPLE unregistered.
```

renew-auth-server-api-key

セッションマネージャークライアントに提供される OAuth 2.0 アクセストークンに署名するために、ブローカーによって使用されるパブリックキーとプライベートキーを更新します。キーを更新する場合は、API リクエストの実行に新しいプライベートキーが必要になるため、新しいプライベートキーをデベロッパーに提供する必要があります。

トピック

- [Syntax](#)
- [例](#)

Syntax

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker renew-auth-server-api-key
```

例

次の例では、パブリックキーとプライベートキーを更新します。

--コマンド:

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker renew-auth-server-api-key
```

出力

```
Keys renewed.
```

generate-software-statement

ソフトウェアステートメントを生成します。

通信を有効にするには、エージェントをブローカーに登録する必要があります。エージェントをブローカーに登録するにはソフトウェアステートメントが必要です。エージェントでは、ソフトウェア

ステートメントを取得したら、[OAuth 2.0 動的クライアント登録プロトコル](#)を使用してブローカーに自動的に登録されます。エージェントがブローカーに登録されると、ブローカーとの認証に使用するクライアント ID とクライアントシークレットを受け取ります。

ブローカーとエージェントでは、初回インストール時にデフォルトのソフトウェアステートメントを受け取って使用します。デフォルトのソフトウェアステートメントを引き続き使用することも、新しいソフトウェアステートメントを生成することもできます。新しいソフトウェアステートメントを生成する場合は、そのソフトウェアステートメントをエージェントの新しいファイルに配置し、agent.conf ファイルの agent.software_statement_path パラメータにファイルパスを追加する必要があります。この作業が完了した後、エージェントを停止して再起動すると、新しいソフトウェアステートメントを使用してブローカーに登録できます。

トピック

- [構文](#)
- [Output](#)
- [例](#)

構文

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker generate-software-statement
```

Output

software-statement

ソフトウェアステートメント。

例

次の例では、ソフトウェアステートメントを生成します。

--コマンド:

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker generate-software-statement
```

出力

```
software-statement:
```

```
ewogICJpZCIgOiAiYjc1NTVhN2QtNWl0MC00OTJhLWJjOTU0NmUzOWNhYzkyMDcxIiwKICAiYWN0aXZlIiA6IHRydWUsCi
```

describe-software-statements

既存のソフトウェアステートメントについて説明します。

トピック

- [構文](#)
- [Output](#)
- [例](#)

構文

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker describe-software-statements
```

Output

software-statement

ソフトウェアステートメント。

issued-at

ソフトウェアが生成された日時。

is-active

ソフトウェアステートメントの現在の状態。ソフトウェアステートメントがアクティブな場合は true。それ以外の場合は false。

例

次の例では、ソフトウェアステートメントを生成します。

--コマンド:

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker describe-software-statements
```

出力

```
Software Statements
[ {
  "software-statement" :
    "ewogICJpZCIgOiAiYmEEXAMPLEYtNzUwNy00YmFhLTliZWItYTA1MmJjZTE3NDJjIiwKICAiaXNzdWVkQXQiIDogMTU5M",
  "issued-at" : "2020.08.05 15:38:32 +0000",
  "is-active" : "true"
}, {
  "software-statement" :
    "EXAMPLEpZCIgOiAiYjc1NTVhN2QtNWl0MC00OTJhLWJjOTUtNmUzOWNhYzkyMDcxIiwKICAiaXNzdWVEXAMPLEDogMTU5M",
  "issued-at" : "2020.08.07 10:24:41 +0000",
  "is-active" : "true"
} ]
```

deactivate-software-statement

ソフトウェアステートメントを非アクティブ化します。ソフトウェアステートメントは、非アクティブ化すると、エージェント登録に使用できなくなります。

トピック

- [構文](#)
- [オプション](#)
- [例](#)

構文

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker deactivate-software-statement --software-statement software_statement
```

オプション

--software-statement

非アクティブ化するソフトウェアステートメント。

タイプ: 文字列

必須: はい

例

次の例では、ソフトウェアステートメントを非アクティブ化します。

--コマンド:

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker deactivate-software-statement --software-statement  
EXAMPLEpZCIg0iAiYjc1NTVhN2QtNWl0MC00OTJhLWJjOTU0tNmUzOWNhYzkxMDcxIiwKICAiaXNEXAMPLEQiIDogMTU5Nj
```

出力

```
Software statement  
EXAMPLEpZCIg0iAiYjc1NTVhN2QtNWl0MC00OTJhLWJjOTU0tNmUzOWNhYzkxMDcxIiwKICAiaXNEXAMPLEQiIDogMTU5Nj  
deactivated
```

describe-agent-clients

ブローカーに登録されているエージェントを記述します。

トピック

- [構文](#)
- [Output](#)
- [例](#)

構文

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker describe-agent-clients
```

Output

name

エージェントの名前。

id

エージェントの一意の ID。

active

エージェントの状態。エージェントがアクティブな場合は true。それ以外の場合は false。

例

次の例ではエージェントを記述します。

--コマンド:

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker describe-agent-clients
```

出力

```
Session manager agent clients
[ {
  "name" : "test",
  "id" : "6bc05632-70cb-4410-9e54-eaf9bEXAMPLE",
  "active" : true
}, {
  "name" : "test",
  "id" : "27131cc2-4c71-4157-a4ca-bde38EXAMPLE",
  "active" : true
}, {
  "name" : "test",
  "id" : "308dd275-2b66-443f-95af-33f63EXAMPLE",
  "active" : false
}, {
  "name" : "test",
  "id" : "ce412d1b-d75c-4510-a11b-9d9a3EXAMPLE",
  "active" : true
} ]
```

unregister-agent-client

ブローカーへのエージェントの登録を解除します。

トピック

- [構文](#)
- [オプション](#)

- [例](#)

構文

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker unregister-agent-client --client-id client_id
```

オプション

--client-id

登録を解除するエージェントの ID。

タイプ: 文字列

必須: はい

例

次の例ではエージェントの登録を解除します。

--コマンド:

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker unregister-agent-client --client-id  
3b0d7b1d-78c7-4e79-b2e1-b976dEXAMPLE
```

出力

```
agent client 3b0d7b1d-78c7-4e79-b2e1-b976dEXAMPLE unregistered
```

register-server-dns-mappings

JSON ファイルに基づく DCV サーバーと DNS 名のマッピングを登録します。

構文

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker register-server-dns-mappings --file-  
path file_path
```

オプション

--file-path

DCV サーバーと DNS 名のマッピングを含むファイルのパスです。

タイプ: 文字列

必須: はい

例

次の例は、/tmp/mappings.json ファイルから DCV サーバーと DNS 名のマッピングを登録します。

--コマンド:

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker register-server-dns-mappings --file-path /tmp/mappings.json
```

出力

```
Successfully loaded 2 server id - dns name mappings from file /tmp/mappings.json
```

describe-server-dns-mappings

現在利用可能な DCV サーバー と DNS 名マッピングを示します。

構文

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker describe-server-dns-mappings
```

Output

serverIdType

サーバー ID のタイプ

serverId

サーバーに付けられた一意の ID

dnsNames

内部 DNS 名と外部 DNS 名

internalDnsNames

内部 DNS 名

externalDnsNames

外部 DNS 名

例

次の例は、登録されている DCV サーバー と DNS 名のマッピングの一覧を示します。

--コマンド:

```
sudo -u root dcv-session-manager-broker describe-server-dns-mappings
```

出力

```
[
{
  "serverIdType" : "Id",
  "serverId" : "192.168.0.1",
  "dnsNames" : {
    "internalDnsName" : "internal1",
    "externalDnsName" : "external1"
  }
},
{
  "serverIdType" : "Host.Aws.Ec2InstanceId",
  "serverId" : "i-0648aee30bc78bdff",
  "dnsNames" : {
    "internalDnsName" : "internal2",
    "externalDnsName" : "external2"
  }
}
]
```

設定ファイルリファレンス

このセクションでは、セッションマネージャーで使用可能な設定オプションの概要について説明します。設定には、エージェントファイルとブローカーファイルの両方に対する変更が含まれます。各設定には、目的、許容値、システム動作全体への影響の説明が含まれます。Amazon DCV セッションマネージャーは、Amazon DCV システムの固有の要件を満たすようにカスタマイズできます。

トピック

- [ブローカー設定ファイル](#)
- [エージェント設定ファイル](#)

ブローカー設定ファイル

ブローカー設定ファイル (/etc/dcv-session-manager-broker/session-manager-broker.properties) には、セッションマネージャー機能をカスタマイズするために設定できるパラメータが含まれています。希望するテキストエディタを使用して設定ファイルを手動で編集することができます。

Note

/etc/dcv-session-manager-broker/session-manager-broker.properties ファイルには機密データが含まれています。デフォルトでは、書き込みアクセスはルートに制限され、読み取りアクセスはルートおよびブローカーを実行しているユーザーに制限されます。デフォルトでは、これは dcvsmbroker ユーザーです。ブローカーの起動時に、期待される許可がファイルに含まれていることが確認されます。

下表にブローカー設定ファイルのパラメータを示します。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
broker-ja	いいえ		ブローカーがシステムのデフォルトディレクトリの代わりに使用する Java

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
va-home			ホームディレクトリのパスを指定します。設定すると、ブローカーは起動時に <broker-java-home>/bin/java を使用します。 ヒント: ブローカーには Java ランタイム環境 11 が必要であり、インストールが成功したときに依存関係として欠落している場合はインストールされます。バージョン 11 がデフォルトの Java 環境として設定されていない場合は、以下のコマンドを使用してホームディレクトリを取得できます。 <pre>\$ sudo alternatives --display java</pre>
session-screenshots-max-width	いいえ	160	GetSessionScreenshots API を使用して、セッションスクリーンショットの最大幅 (ピクセル単位) を指定します。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
<code>session-screenshots-max-height</code>	いいえ	100	GetSessionScreenshots API を使用して、セッションスクリーンショットの最大高さ (ピクセル単位) を指定します。
<code>session-screenshots-format</code>	いいえ	png	GetSessionScreenshots API を使用して撮影したセッションスクリーンショットのイメージファイル形式です。
<code>create-sessions-queue-max-size</code>	いいえ	1000	キューに入る可能性がある未処理の CreateSessions API リクエストの最大数です。キューがいっぱいになると、新たな未処理リクエストは拒否されます。
<code>create-sessions-queue-max-time-seconds</code>	いいえ	1800	未処理の CreateSessions API リクエストがキューに残留できる最長時間 (秒) です。リクエストは、指定時間内に処理されないと失敗します。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
session-manager-working-path	はい	/tmp	操作に必要なファイルがブローカーにより書き込まれるディレクトリへのパスを指定します。このディレクトリにはブローカーしかアクセスできません。
enable-authorization-server	はい	true	ブローカーをクライアント API の OAuth 2.0 アクセストークンの生成に使用される認証サーバーにするかどうかを指定します。
enable-authorization	はい	true	クライアント認可を有効または無効にします。クライアント認可を有効にした場合、API リクエストの実行時にクライアント API からアクセストークンが提供される必要があります。クライアント認可を無効にすると、クライアント API によりアクセストークンなしでリクエストが実行されます。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
enable-agent-authorization	はい	true	エージェント認可を有効または無効にします。エージェント認可を有効にした場合、ブローカーとの通信時にエージェントからアクセストークンが提供される必要があります。
delete-session-duration-hours	いいえ	1	削除されたセッションが非表示になって DescribeSession API コールによって返されなくなるまでの時間数を指定します。廃止: delete-session-duration-hours は delete-session-duration-seconds へ変更されます。バージョン 2024.0-493 から利用可能です。
delete-session-duration-seconds	いいえ	3600	削除されたセッションが非表示になって DescribeSession API コールによって返されなくなるまでの秒数を指定します。このパラメータは、廃止された delete-session-duration-hours パラメータと置き換わります。バージョン 2024.0-493 以降で利用可能です。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
connect-session-token-duration-minutes	いいえ	60	ConnectSession トークンの有効状態が維持される時間を分単位で指定します。
client-to-broker-connect-https-port	はい	8443	ブローカーによりクライアント接続に対してリッスンされる HTTPS ポートを指定します。
client-to-broker-connect-bind-host	いいえ	0.0.0.0	ブローカーによりクライアント接続に対してバインドされるホストの IP アドレスを指定します。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
client-to-broker-connect-key-store-file	はい		TLS クライアント接続に使用されるキーストアを指定します。
client-to-broker-connect-key-store-pass	はい		キーストアのパスを指定します。
agent-to-broker-connect-https-port	はい	8445	ブローカーによりエージェント接続に対してリッスンされる HTTPS ポートを指定します。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
agent-to-broker-connect-to-broker-ind-host	いいえ	0.0.0.0	ブローカーによりエージェント接続に対してバインドされるホストの IP アドレスを指定します。
agent-to-broker-connect-key-store-file	はい		TLS エージェント接続に使用するキーストアを指定します。
agent-to-broker-connect-key-store-pass	はい		キーストアのパスを指定します。
broker-to-broker-port	はい	47100	ブローカー間接続に使用するポートを指定します。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
broker-to-broker-bind-host	いいえ	0.0.0.0	ブローカーによりブローカー間接続に対してバインドされるホストの IP アドレスを指定します。
broker-to-broker-discovered-port	はい	47500	ブローカーの相互検出に使用するポートを指定します。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
broker-to-broker-discovery-address	いいえ		フリート内の他のブローカーの IP アドレスとポートを <i>ip_address :port</i> 形式で指定します。ブローカーが複数ある場合は、値をカンマで区切ります。broker-to-broker-discovery-multicast-group、broker-to-broker-discovery-multicast-port、broker-to-broker-discovery-AWS-region 、または broker-to-broker-discovery-AWS-alb-target-group-arn を指定した場合は、このパラメータを省略します。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
broker-to-broker-discovery-multicast-group	いいえ		ブローカー間検出用のマルチキャストグループを指定します。broker-to-broker-discovery-addresses、broker-to-broker-discovery-aws-region、または broker-to-broker-discovery-AWS-alb-target-group-arn を指定した場合は、このパラメータを省略します。
broker-to-broker-discovery-multicast-port	いいえ		ブローカー間検出用のマルチキャストポートを指定します。broker-to-broker-discovery-addresses、broker-to-broker-discovery-aws-region、または broker-to-broker-discovery-AWS-alb-target-group-arn を指定した場合は、このパラメータを省略します。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
broker-to-broker-discovery-AWS-region	いいえ		ブローカーからブローカーへの検出に使用されるアプリケーションロードバランサーの AWS リージョンを指定します。broker-to-broker-discovery-multicast-group、broker-to-broker-discovery-multicast-port、または broker-to-broker-discovery-addresses を指定した場合は、このパラメータを省略します。
broker-to-broker-discovery-AWS-alb-target-group-arn	いいえ		ブローカー間検出に使用する Application Load Balancer ターゲットグループの ARN です。broker-to-broker-discovery-multicast-group、broker-to-broker-discovery-multicast-port、または broker-to-broker-discovery-addresses を指定した場合は、このパラメータを省略します。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
broker-to-broker-distributed-memory-max-size-mb	いいえ	4096	Amazon DCV セッションデータを保存するために単一ブローカーによって使用されるオフヒープメモリの最大量を指定します。
broker-to-broker-key-store-file	はい		TLS ブローカー接続に使用するキーストアを指定します。
broker-to-broker-key-store-pass	はい		キーストアのパスを指定します。
enable-cloud-watch-metrics	いいえ	false	Amazon CloudWatch メトリクスを有効または無効にします。CloudWatch メトリクスを有効にした場合は、cloud-watch-region に対して値を指定する必要があります。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
cloud-watch-region	いいえ	enable-cloud-watch-metrics が true に設定されている場合のみ必須です。ブローカーが Amazon EC2 インスタンスにインストールされている場合、リージョンは IMDS から取得されます。	CloudWatch メトリクスが投稿される AWS リージョン。
max-api-requests-per-second	いいえ	1000	ブローカー API がスロットリングされる前に 1 秒間で処理できるリクエストの最大数を指定します。
enable-throttling-forwards-for-header	いいえ	false	true に設定されている場合、スロットリングにより X-Forwarded-For ヘッダー (存在する場合) から発信者 IP が検索されます。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
create-session-number-of-retries-on-failure	いいえ	2	Amazon DCV サーバーホストでセッション作成リクエストが失敗した場合、その後に実行される再試行回数の上限を指定します。失敗時に再試行されないようにする場合は 0 に設定します。
autorun-file-arguments-max-size	いいえ	50	自動実行ファイルに渡される引数の最大数を指定します。
autorun-file-arguments-max-argument-length	いいえ	150	各自動実行ファイルの最大長を文字数で指定します。
enable-peersister	はい	false	true に設定されている場合、ブローカーのステータスデータは外部データベースに残されます。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
persistencedb	いいえ	enable-persistence が true に設定されている場合のみ必須です。	残存のために使用するデータベースを指定します。サポートされる値は dynamodb と mysql のみです。
dynamodbregion	いいえ	enable-persistence が true に設定されて persistence-db が dynamodb に設定されている場合のみ必須です。	DynamoDB テーブルの作成とアクセスが実行されるリージョンを指定します。
dynamodbtable-rcu	いいえ	enable-persistence が true に設定されて persistence-db が dynamodb に設定されている場合のみ必須です。	各 DynamoDB テーブルの読み取りキャパシティーユニット (RCU) を指定します。RCU の詳細については、「 プロビジョンドキャパシティーの料金 」を参照してください。
dynamodbtable-wcu	いいえ	enable-persistence が true に設定されて persistence-db が dynamodb に設定されている場合のみ必須です。	各 DynamoDB テーブルの書き込みキャパシティーユニット (WCU) を指定します。WCU の詳しい情報については、「 プロビジョンドキャパシティーの料金 」を参照してください。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
dynamodb-table-name-prefix	いいえ	enable-persistence が true に設定されて persistence-db が dynamodb に設定されている場合のみ必須です。	各 DynamoDB テーブルに追加するプレフィックスを指定します (同じ AWS アカウントを使用して複数のブローカークラスターを区別するのに役立ちます)。英数字、ドット、ダッシュ、下線のみを使用できます。
jdbc-connection-url	いいえ	enable-persistence が true に設定されて persistence-db が mysql に設定されている場合のみ必須です。	MariaDB/MySQL データベースへの接続 URL を指定します。このデータベースには、エンドポイントとデータベース名が含まれます。URL は次の形式とします: <pre>jdbc:mysql://<db_endpoint>:<db_port>/<db_name>?createDatabaseIfNotExist=true</pre> <db_endpoint> が MariaDB/MySQL データベースエンドポイントである場合、<db_port> はデータベースポートになり、<db_name> はデータベース名になります。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
jdbc-user	いいえ	enable-persistence が true に設定されて persistence-db が mysql に設定されている場合のみ必須です。	MariaDB/MySQL データベースにアクセスできるユーザーの名前を指定します。
jdbc-password	いいえ	enable-persistence が true に設定されて persistence-db が mysql に設定されている場合のみ必須です。	MariaDB/MySQL データベースにアクセスできるユーザーのパスワードを指定します。
seconds-before-deleting-unreachable-dcv-server	いいえ	1800	アクセスできない Amazon DCV サーバーがシステムから削除されるまでの秒数を指定します。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
seconds-before-deleting-sessions-unreachable-server	いいえ		アクセスできない Amazon DCV サーバーのセッションがシステムから削除されるまでの秒数を指定します。アクセスできないサーバーからのセッションの削除は、デフォルトで無効になっています。アクセスできないサーバーからのセッションの削除を有効にするには、有効な値を指定します。
session-screenshots-max-width	いいえ	160	GetSessionScreenshots API を使用して、セッションスクリーンショットの最大幅 (ピクセル単位) を指定します。session-screenshot-max-width が ウェブクライアント設定ファイル で設定されている場合は優先され、このデフォルト値が上書きされます。なお、これは最大幅であるため、実際のスクリーンショット解像度は低くなる可能性があります。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	説明
session-screenshot-max-height	いいえ	100	GetSessionScreenshots API を使用して、セッションスクリーンショットの最大高さ (ピクセル単位) を指定します。session-screenshot-max-height が ウェブクライアント設定ファイル で設定されている場合は優先され、このデフォルト値が上書きされます。なお、これは最大高さであるため、実際のスクリーンショット解像度は低くなる可能性があります。

エージェント設定ファイル

エージェント設定ファイル (/etc/dcv-session-manager-agent/agent.confLinux および macOS の場合は、Windows C:\Program Files\NICE\DCVSessionManagerAgent\conf\agent.conf の場合は) には、Session Manager の機能をカスタマイズするように設定できるパラメータが含まれています。希望するテキストエディタを使用して設定ファイルを手動で編集することができます。

下表にエージェント設定ファイルのパラメータを示します。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	[Description] (説明)
agent.kerberos	はい		ブローカーホストの DNS 名を指定します。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	[Description] (説明)
agent.tls_key_pos	はい	8445	ブローカーとの通信用のポートを指定します。
agent.tls_strict_file	いいえ		tls_strict が true に設定されている場合のみ必要です。TLS 証明書の検証に必要な証明書 (.pem) ファイルへのパスを指定します。ブローカーからエージェントに自己署名証明書をコピーしてください。
agent.init_file_path	いいえ	/var/lib/dcv-session-manager-agent/init (Linux)	Amazon DCV サーバースッションを作成時に初期化できるカスタムスクリプトを保存するために使用するフォルダー (ホストサーバーにある) へのパスを指定します。絶対パスを指定する必要があります。このフォルダはアクセス可能な状態でなければならず、ファイルは、CreateSessions API の initFile リクエストパラメータを使用するユーザーが実行できる状態であればなりません。
agent.tls_strict	いいえ	true	厳密な TLS 検証を使用するかどうかを示します。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	[Description] (説明)
agent_software_statement_path	いいえ		デフォルトのソフトウェアステートメントが使用されていない場合にのみ必要です。ソフトウェアステートメントファイルへのパスを指定します。詳細については、「 generate-software-statement 」を参照してください。
agent_session_folder	いいえ	/etc/dcv-session-manager-agent (Linux/macOS) - C:\Program Files\NICE\DCVSessionManagerAgent\conf\tags (Windows)	タグファイルが入っているフォルダへのパスを指定します。詳細については、「 Amazon DCV サーバーをターゲットにするためのタグの使用 」を参照してください。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	[Description] (説明)
agent.autorun_folder	いいえ	• /var/lib/dcv-session-manager-agent/autorun (Linux) • C:\ProgramData\NICE\DcvSessionManagerAgent\autorun (Windows)	セッションのスタートアップ時に自動的に実行できるスクリプトとアプリを保存する場合に使用するフォルダー (ホストサーバーにある) へのパスを指定します。絶対パスを指定する必要があります。このフォルダはアクセス可能な状態でなければならず、ファイルは、CreateSessions API の AutorunFile リクエストパラメータを使用するユーザーが実行できる状態であればなりません。
agent._virtual_sessions	いいえ	-1 (制限なし)	Amazon DCV セッションマネージャーを使用して Amazon DCV サーバーで作成できる仮想セッションの最大数です。
agent._concurrent_sessions_per_user	いいえ	1	1 名のユーザーが Amazon DCV セッションマネージャーを使用して Amazon DCV サーバーで作成できる仮想セッションの最大数です。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	[Description] (説明)
agent.locker_update_interval	いいえ	30	更新されたデータをブローカーに送信するまでに待機する秒数を指定します。送信データには、Amazon DCV サーバーとホストのステータス、および更新されたセッション情報が含まれます。値が小さいほど、セッションマネージャーはエージェントが実行されているシステムで発生した変更をより認識できますが、システム負荷とネットワークトラフィックが増加します。値を高くするとシステムやネットワークの負荷は減りますが、セッションマネージャーはシステムの変更に反応しにくくなるため、120 よりも高い値は推奨されません。
agent.enable_logging_users	なし	true	Windows でログに記録されたユーザーの取得を有効にします。true の場合、実際のログインユーザーのシステムをクエリします。false の場合、「unknown」を返します。

パラ メータ 名	必須	デフォルトの値	[Description] (説明)
agent.preferred_network_interface	いいえ		ホスト IP 検出に使用するネットワークインターフェイス名を指定します。例: eth0 (Linux)、Ethernet 4 (Windows)。Linux/macOS 名では大文字と小文字が区別され、Windows 名では大文字と小文字が区別されません。指定しない場合、または指定されたネットワークインターフェイスが見つからない場合は、最初の非ループバックインターフェイスが選択されます。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	[Description] (説明)
log.level	いいえ	info	ログファイルの詳細レベルを指定します。以下の詳細レベルを使用できます。 - error — 最小限の詳細を提供します。エラーのみが含まれています。 - warning — エラーと警告が含まれています。 - info — デフォルトの詳細レベルです。エラー、警告、情報メッセージが含まれています。 - debug — 最も詳細な情報を提供します。問題のデバッグに役立つ詳細情報を提供します。
log.directory	いいえ	/var/log/dcv-session-manager-agent/ (Linux/macOS) - C:\ProgramData\nice\DCVSessionManagerAgent\log (Windows)	ログファイルを作成するディレクトリを指定します。

パラメータ名	必須	デフォルトの値	[Description] (説明)
log.rotation	いいえ	daily	ログファイルのローテーションを指定します。次の値を指定できます。 - hourly — ログファイルが 1 時間単位でローテーションされます。 - daily — ログファイルが 1 日単位でローテーションされます。
log.max-file-size	いいえ	10485760	ログファイルのサイズが指定されたサイズ (バイト) に達すると、ローテーションされます。新しいログファイルが作成され、そのファイルにさらにログイベントが記録されます。
log.rotate	いいえ	9	ローテーションで保持されるログファイルの最大数。ローテーションが発生してこの数に達するたびに、最も古いログファイルが削除されます。

Amazon DCV セッションマネージャーのリリースノートとドキュメント履歴

このページでは、Amazon DCV セッションマネージャーのリリースノートとドキュメント履歴を掲載します。

トピック

- [Amazon DCV セッションマネージャーのリリースノート](#)
- [ドキュメント履歴](#)

Amazon DCV セッションマネージャーのリリースノート

このセクションでは、Amazon DCV セッションマネージャーの大幅な更新、機能リリース、バグ修正の概要について説明します。更新はすべてリリース日別に整理されています。お客様からお寄せいただいたフィードバックに対応するために、ドキュメントを頻繁に更新しています。

トピック

- [2025.0-544 — 2026 年 2 月 2 日](#)
- [2025.0-544 — 2025 年 12 月 23 日](#)
- [2025.0-539 — 2025 年 11 月 12 日](#)
- [2025.0-539 — 2025 年 10 月 22 日](#)
- [2024.0-531 — 2025 年 6 月 17 日](#)
- [2024.0-504 — 2025 年 3 月 31 日](#)
- [2024.0-493 — 2025 年 1 月 15 日](#)
- [2024.0-457 - 2024 年 10 月 1 日](#)
- [2023.1-17652 - 2024 年 8 月 1 日](#)
- [2023.1-16388 - 2024 年 6 月 26 日](#)
- [2023.1— 2023 年 11 月 9 日](#)
- [2023.0-15065— 2023 年 5 月 4 日](#)
- [2023.0-14852— 2023 年 3 月 28 日](#)
- [2022.2-13907— 2022 年 11 月 11 日](#)
- [2022.1-13067— 2022 年 6 月 29 日](#)

- [2022.0-11952 — 2022 年 2 月 23 日](#)
- [2021.3-11591 — 2021 年 12 月 20 日](#)
- [2021.2-11445 — 2021 年 11 月 18 日](#)
- [2021.2-11190 — 2021 年 10 月 11 日](#)
- [2021.2-11042 — 2021 年 9 月 1 日](#)
- [2021.1-10557 — 2021 年 5 月 31 日](#)
- [2021.0-10242 — 2021 年 4 月 12 日](#)
- [2020.2-9662 — 2020 年 12 月 4 日](#)
- [2020.2-9508 — 2020 年 11 月 11 日](#)

2025.0-544 — 2026 年 2 月 2 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー : 544 • エージェント : 902 • CLI: 159	• ホスト IP 検出preferred_network_interface の設定パラメータを追加しました。

2025.0-544 — 2025 年 12 月 23 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー : 544 • エージェント : 893 • CLI: 159	• macOS ホストでのスクリーンショットの取得の失敗を解決するために WebSocket メッセージサイズ制限を引き上げました。 • Windows ビルド環境を Visual Studio 2022 に更新しました。

2025.0-539 — 2025 年 11 月 12 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー : 539 • エージェント : 888	• macOS エージェントバンドル識別子を NICE ソフトウェアから Amazon にブランド変更しました。

ビルド番号	変更とバグ修正
• CLI: 159	

2025.0-539 — 2025 年 10 月 22 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー : 539 • エージェント : 886 • CLI: 159	• Windows システムでログに記録されたユーザーのクエリ動作を指定するため、エージェント設定ファイルに <code>enable_query_logged_in_users</code> 設定パラメータを追加しました。 • PowerShell コマンドをネイティブ Windows API (WMI および Windows レジストリ) に置き換え、システム情報を取得する際のパフォーマンスと信頼性を向上させました。 • UUID ベースの検出が失敗した場合に AWS メタデータサービスにフォールバックして Amazon EC2 検出を改善することで、Windows Amazon EC2 インスタンスの DNS 名解決を修正しました。 • バージョンが 2025 に更新されました。

2024.0-531 — 2025 年 6 月 17 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー : 531 • エージェント : 852 • CLI: 154	• 有効期限が切れる前に証明書を更新する機能を追加しました。 • NICE DCV を Amazon DCV にブランド変更しました。 • バグが修正されました。

2024.0-504 — 2025 年 3 月 31 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー : 504 • エージェント : 817	• AL2023 のサポートが追加されました。 • パフォーマンス向上とバグ修正が行われています。

ビルド番号	変更とバグ修正
• CLI: 154	

2024.0-493 — 2025 年 1 月 15 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー : 493 • エージェント : 801 • CLI: 152	• スクリーンショットの最大の高さと幅を指定するパラメータを <code>GetSessionScreenshot</code> リクエストに追加しました。 • アクセスできない Amazon DCV サーバーのセッションがシステムから削除されるまでの秒数を指定するパラメータをブローカー設定ファイルに追加しました。 • ブローカー設定ファイルの <code>seconds-before-deleting-unreachable-dcv-server</code> パラメータが受け入れられない問題を修正しました。 • パフォーマンス向上とバグ修正が行われています。

2024.0-457 - 2024 年 10 月 1 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 457 • エージェント: 748 • CLI: 140	• NICE DCV を Amazon DCV にブランド変更しました。 • Ubuntu 24.04 に追加されたサポート。

2023.1-17652 - 2024 年 8 月 1 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 426 • エージェント: 748	• パフォーマンス向上とバグ修正が行われています。

ビルド番号	変更とバグ修正
• CLI: 140	

2023.1-16388 - 2024 年 6 月 26 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 417 • エージェント: 748 • CLI: 140	• GB ではなく TB としてメモリが誤って表示されたバグを修正しました。 • パフォーマンス向上とバグ修正が行われています。

2023.1— 2023 年 11 月 9 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 410 • エージェント: 732 • CLI: 140	• バグを修正してパフォーマンスを改善しました。

2023.0-15065— 2023 年 5 月 4 日

ビルド番号	変更とバグ修正
• ブローカー: 392 • エージェント: 675 • CLI: 132	• ARM プラットフォームで Red Hat Enterprise Linux 9、Rocky Linux 9、CentOS Stream 9 のサポートが追加されました。

2023.0-14852— 2023 年 3 月 28 日

ビルド番号	変更とバグ修正
- ブローカー: 392 - エージェント: 642 - CLI: 132	Red Hat Enterprise Linux 9、Rocky Linux 9、CentOS Stream 9 のサポートが追加されました。

2022.2-13907— 2022 年 11 月 11 日

ビルド番号	変更とバグ修正
- ブローカー: 382 - エージェント: 612 - CLI: 123	- DescribeSessions の応答に Substate フィールドが追加されました。 - 使用中の URL に応じて CLI がブローカーに接続できない問題を修正しました。

2022.1-13067— 2022 年 6 月 29 日

ビルド番号	変更とバグ修正
- ブローカー: 355 - エージェント: 592 - CLI: 114	- Graviton AWS インスタンスでブローカーを実行するためのサポートが追加されました。 - Ubuntu 22.04 のエージェントとブローカーのサポートが追加されました。

2022.0-11952 — 2022 年 2 月 23 日

ビルド番号	変更とバグ修正
ブローカー: 341	エージェントにログローテーション機能が追加されました。

ビルド番号	変更とバグ修正
- エージェント: 520 - CLI: 112	- ブローカーに Java ホームを設定する設定パラメータを追加しました。 - ブローカーのキャッシュからディスクへのデータフラッシュが改善されました。 - CLI での URL 検証を修正しました。

2021.3-11591 — 2021 年 12 月 20 日

ビルド番号	新機能
- ブローカー: 307 - エージェント: 453 - CLI: 92	- Amazon DCV Connection Gateway との統合のサポートが追加されました。 - Ubuntu 18.04 と Ubuntu 20.04 のブローカーのサポートが追加されました。

2021.2-11445 — 2021 年 11 月 18 日

ビルド番号	変更とバグ修正
- ブローカー: 288 - エージェント: 413 - CLI: 54	Windows ドメインを含むログイン名の検証に関する問題を修正しました。

2021.2-11190 — 2021 年 10 月 11 日

ビルド番号	変更とバグ修正
- ブローカー: 254 - エージェント: 413 - CLI: 54	コマンドラインインターフェイスで Windows セッションを起動できない問題を修正しました。

2021.2-11042 — 2021 年 9 月 1 日

ビルド番号	新機能	変更とバグ修正
- ブローカー: 254 - エージェント: 413 - CLI: 37	- Amazon DCV セッションマネージャーで、コマンドラインインターフェイス (CLI) がサポートされるようになりました。API を呼び出すのではなく、CLI で、Amazon DCV セッションの作成と管理を実行できます。 - Amazon DCV セッションマネージャーにブローカーデータの永続性を導入しました。可用性を高めるために、ブローカーでは、サーバーの状態情報を外部データストアに残しておいて、スタートアップ時にデータを復元することができます。	外部認可サーバーを登録するときに、認可サーバーで JSON 形式のウェブトークンの署名に使用されるアルゴリズムを指定できるようになりました。この変更により、Azure AD を外部認可サーバーとして使用できます。

2021.1-10557 — 2021 年 5 月 31 日

ビルド番号	新機能	変更とバグ修正
- ブローカー: 214 - エージェント: 365	- Amazon DCV セッションマネージャーにおいて、Linux で自動実行ファイルに渡される入力パラメータのサポートを追加しました。 - サーバープロパティを CreateSessions API に要件として渡すことができました。	Windows での自動実行ファイルに関する問題を修正しました。

2021.0-10242 — 2021 年 4 月 12 日

ビルド番号	変更とバグ修正
- ブローカー: 183 - エージェント: 318	- Amazon DCV セッションマネージャーに次の新しい API を導入しました。 OpenServers CloseServers DescribeServers GetSessionScreenshots - 次の新しい設定パラメータも導入しました。 ブローカーパラメータ: <code>session-screenshot-max-width</code>、<code>session-screenshot-max-height</code>、<code>session-screenshot-format</code>、<code>create-sessions-queue-max-size</code>、<code>create-sessions-queue-max-time-seconds</code> エージェントパラメータ: <code>agent.autorun_folder</code>、<code>max_virtual_sessions</code>、<code>max_concurrent_sessions_per_user</code> エージェントパラメータ: <code>agent.autorun_folder</code>、<code>max_virtual_sessions</code>、<code>max_concurrent_sessions_per_user</code> エージェントパラメータ: <code>agent.autorun_folder</code>、<code>max_virtual_sessions</code>、<code>max_concurrent_sessions_per_user</code>

2020.2-9662 — 2020 年 12 月 4 日

ビルド番号	変更とバグ修正
- ブローカー: 114 - エージェント: 211	自動生成された TLS 証明書によってブローカーの起動が妨害される問題を修正しました。

2020.2-9508 — 2020 年 11 月 11 日

ビルド番号	変更とバグ修正
- ブローカー: 78 - エージェント: 183	Amazon DCV セッションマネージャーの初回リリース。

ドキュメント履歴

次の表は、Amazon DCV セッションマネージャーの今回のリリースの内容をまとめたものです。

変更	説明	日付
Amazon DCV バージョン 2025.0-544	Amazon DCV セッションマネージャーが Amazon DCV 2025.0-544 用に更新されました。詳細については、「 2025.0-544 — 2026 年 2 月 2 日 」を参照してください。	2026 年 2 月 2 日
Amazon DCV バージョン 2025.0-544	Amazon DCV セッションマネージャーが Amazon DCV 2025.0-544 用に更新されました。詳細については、「 2025.0-544 — 2025 年 12 月 23 日 」を参照してください。	2025 年 12 月 23 日
Amazon DCV バージョン 2025.0-539	Amazon DCV セッションマネージャーは、Amazon DCV 2025.0-539 用に更新されました。詳細については、「 2025.0-539 — 2025 年 11 月 12 日 」を参照してください。	2025 年 11 月 12 日
Amazon DCV バージョン 2025.0-539	Amazon DCV セッションマネージャーは、Amazon DCV 2025.0-539 用に更新されました。詳細については、「 2025.0-539 — 2025 年 10 月 22 日 」を参照してください。	2025 年 10 月 22 日

変更	説明	日付
Amazon DCV バージョン 2024.0-531	Amazon DCV セッションマネージャーが Amazon DCV 2024.0-531 用に更新されました。詳細については、「 2024.0-531 — 2025 年 6 月 17 日 」を参照してください。	2025 年 6 月 17 日
Amazon DCV バージョン 2024.0-504	Amazon DCV セッションマネージャーが Amazon DCV 2024.0-504 用に更新されました。詳細については、「 2024.0-504 — 2025 年 3 月 31 日 」を参照してください。	2025 年 3 月 31 日
Amazon DCV バージョン 2024.0-493	Amazon DCV セッションマネージャーは、Amazon DCV 2024.0-493 用に更新されました。詳細については、「 2024.0-493 — 2025 年 1 月 15 日 」を参照してください。	2025 年 1 月 15 日
Amazon DCV バージョン 2024.0-457	Amazon DCV 2024.0-457 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「 2024.0-457 - 2024 年 10 月 1 日 」を参照してください。	2024 年 9 月 30 日
Amazon DCV バージョン 2023.1-17652	Amazon DCV 2023.1-17652 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「 2023.1-17652 - 2024 年 8 月 1 日 」を参照してください。	2024 年 8 月 1 日
Amazon DCV バージョン 2023.1-16388	Amazon DCV 2023.1-16388 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「 2023.1-16388 - 2024 年 6 月 26 日 」を参照してください。	2024 年 6 月 26 日

変更	説明	日付
Amazon DCV バージョン 2023.1	Amazon DCV 2023.1 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「 2023.1 — 2023 年 11 月 9 日 」を参照してください。	2023 年 11 月 9 日
Amazon DCV バージョン 2023.0	Amazon DCV 2023.0 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「 2023.0-14852 — 2023 年 3 月 28 日 」を参照してください。	2023 年 3 月 28 日
Amazon DCV バージョン 2022.2	Amazon DCV 2022.2 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「 2022.2-13907 — 2022 年 11 月 11 日 」を参照してください。	2022 年 11 月 11 日
Amazon DCV バージョン 2022.1	Amazon DCV 2022.1 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「 2022.1-13067 — 2022 年 6 月 29 日 」を参照してください。	2022 年 1 月 29 日
Amazon DCV バージョン 2022.0	Amazon DCV 2022.0 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「 2022.0-11952 — 2022 年 2 月 23 日 」を参照してください。	2022 年 2 月 23 日
Amazon DCV バージョン 2021.3	Amazon DCV 2021.3 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「 2021.3-11591 — 2021 年 12 月 20 日 」を参照してください。	2021 年 12 月 20 日

変更	説明	日付
Amazon DCV バージョン 2021.2	Amazon DCV 2021.2 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「 2021.2-11042 — 2021 年 9 月 1 日 」を参照してください。	2021 年 9 月 1 日
Amazon DCV バージョン 2021.1	Amazon DCV 2021.1 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「 2021.1-10557 — 2021 年 5 月 31 日 」を参照してください。	2021 年 5 月 31 日
Amazon DCV バージョン 2021.0	Amazon DCV 2021.0 用に Amazon DCV セッションマネージャーが更新されました。詳細については、「 2021.0-10242 — 2021 年 4 月 12 日 」を参照してください。	2021 年 4 月 12 日
Amazon DCV セッションマネージャーの初回リリース。	このコンテンツの初版です。	2020 年 11 月 11 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。